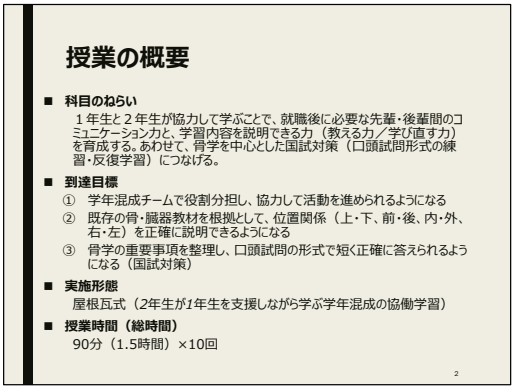
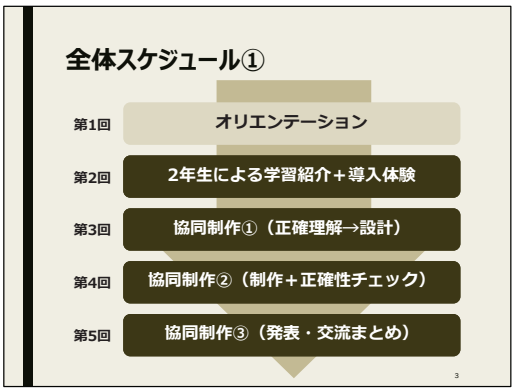


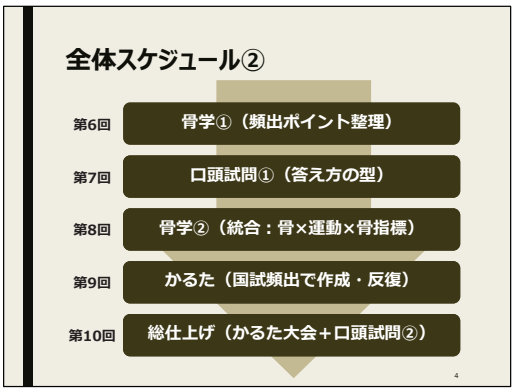
今日から「1年生＋2年生による協働学習」が始まります。この授業の目的は、骨を覚えることだけではありません。一緒に学ぶことで、説明できる力とコミュニケーション力を育てます。
知っているだけではなく、言葉で伝えられることを目指します。1年生は安心して質問を、2年生は支えながら理解を深めることを意識してください。10回を通して、学び方そのものも身につけていきましょう。



ここでは、この授業の全体像を説明します。まず、科目のねらいです。1年生と2年生が協力して学ぶことで、将来の現場で必要となる先輩・後輩間のコミュニケーション力、そして学習内容を説明できる力を育てることを目的としています。特に今回は、骨学を中心に、口頭試問形式で短く正確に答える力を養い、国試対策にもつなげていきます。次に到達目標です。3つあります。1つ目は、学年混成チームで役割分担し、協力して活動できること。2つ目は、教材を根拠として、位置関係を正確に説明できること。3つ目は、骨学の重要事項を整理し、短く正確に答えられることです。実施形態は「屋根瓦式」です。2年生が支援しながら学ぶ学年混成の協働学習です。授業は90分×10回。前半は関係づくりと理解の整理、後半は口頭試問や反復を通して定着を図ります。この10回で、「知識」だけでなく「説明できる力」まで高めていきます。



ここでは、前半5回の流れを説明します。第1回はオリエンテーション。授業の目的や進め方を理解し、チームをつくります。第2回は、2年生による学習紹介と導入体験です。先輩の経験を聞きながら、骨学の入り口を体験します。第3回からは協同制作に入ります。まずは「正確に理解すること」と「どう形にするか設計すること」がテーマです。第4回は実際に制作し、正確性をチェックします。ここでは“作ること”よりも“修正すること”が大切になります。第5回は発表と交流のまとめです。説明することで理解を固め、後半の国試対策フェーズへつなげます。このように、前半は理解 → 設計 → 制作 → 修正 → 説明という流れで進んでいきます。まずはこの5回で、「説明できる理解」の土台をつくります。



ここからは後半5回の流れです。第6回は、骨学の頻出ポイント整理。国試で問われやすい内容を絞り込み、重要事項を整理します。第7回は口頭試問①。「短く正確に答える型」を身につけます。知識を“言葉にして出せる状態”にしていきます。第8回は統合。骨だけでなく、運動や骨指標と結び付けて説明できるようにします。理解を一段深める回です。第9回は、かるた作成と反復。自分たちで問題を作ることで、弱点を可視化します。そして第10回は総仕上げ。かるた大会と最終口頭試問で、ここまでの学びを確認します。前半が「理解を固める期間」だとすると、後半は「答えられる力をつくる期間」です。この5回で、自信を持って説明できる状態を目指します。

学習項目

項目	時間配分	概要
第1回	90分	講義
第2回	90分	2年生によるミニ発表
第3回	90分	協同制作
第4回	90分	協同制作
第5回	90分	協同制作
第6回	90分	口頭試問対策
第7回	90分	口頭試問対策
第8回	90分	口頭試問対策
第9回	90分	かるた制作
第10回	90分	かるた大会
合計	90分×10	

5

こちらが全10回の学習項目です。第1回は講義形式で全体像を理解します。第2回は2年生によるミニ発表で、学習の見通しを持ちます。第3回から第5回までは協同制作です。理解し、設計し、制作し、発表することで土台をつくります。第6回から第8回は口頭試問対策。短く正確に答える力を養います。第9回はかるた制作。自分たちで問題を作ることで理解を深めます。第10回はかるた大会と総仕上げです。すべて90分×10回。段階的に「理解」から「答えられる力」へと進んでいきます。

第１回

オリエンテーション

6

それでは、第1回を始めます。今日はオリエンテーションです。この授業の目的、進め方、そして皆さんの役割を確認します。これから10回を通して、「覚える」だけではなく、説明できる理解を目指していきます。まずは、この授業がどんな時間になるのか、一緒に確認していきましょう。

学年を超えて学ぶ理由

この授業は、学年混成で学ぶ協働学習です。

知識を一方的に教わるのではなく、関わり合いながら学ぶことで、将来の現場につながる力を育てていきます。



7

この授業は、学年混成で行う協働学習です。なぜ、学年を分けずに学ぶのか。医療現場では、1年目も、2年目も、先輩も後輩も、常に「人と関わりながら」仕事をします。知識を一方的に覚えるだけでは、現場では通用しません。分からないことを聞く力。分かっていることを伝える力。相手の理解に合わせて説明する力。そうした力は、関わりの中でしか身につきません。この授業では、お互いに支え合いながら学ぶことで、将来の現場につながる力を育てていきます。

この科目で目指すこと

「覚える」から「説明できる」へ

- 骨学を「覚える」から「説明できる」理解へ
- 先輩・後輩間のコミュニケーション力の向上
- 学びを整理し直す力（教える力・学び直す力）
- 臨床・国家試験につながる基礎力の育成



8

この科目で目指すことは、「覚える」から「説明できる」への変化です。骨学をただ暗記するのではなく、位置関係や根拠をもとに、自分の言葉で説明できる理解へと高めていきます。その過程で、先輩・後輩間のコミュニケーション力を伸ばします。また、誰かに教えることで、自分の学びを整理し直す力も育ちます。そして最終的には、臨床や国家試験につながる基礎力を身につけることが目標です。この10回は、知識を増やす時間ではなく、理解の質を高める時間です。

屋根瓦式協働学習とは

学年混成チームで学ぶ

- 2年生：支援・助言・正確性チェック
- 1年生：質問・実践・発信

※ 教える側も理解が深まり、学ぶ側も安心して取り組める学習形態



9

屋根瓦式協働学習とは、学年混成チームで学ぶ形です。2年生は、支援・助言・正確性チェックの役割を担います。ただ答えを教えるのではなく、「なぜそうなるのか」を一緒に考える立場です。1年生は、質問・実践・発信が役割です。分からないことをそのままにせず、言葉にして出すことが大切です。教える側は理解が深まり、学ぶ側は安心して挑戦できる。それが屋根瓦式の学習です。この役割を意識しながら、チームで取り組んでいきましょう。

今日のゴール

学年を越えて安心して関わり合える学習の土台をつくること。

- 学年が違っても話せる
- 分からないと言える
- 間違えても大丈夫と思える
- 授業の雰囲気に慣れる



10

今日のゴールは、学年を越えて安心して関わり合える土台をつくることです。今日は、完璧に理解することが目的ではありません。まずは、学年が違っても話せること。分からないと素直に言えること。間違えても大丈夫だと思えること。そして、この授業の雰囲気に慣れること。それができれば、今日の目標は達成です。この場を、安心して挑戦できる場所にしていきましょう。

チーム編成と進め方

本授業は、学年混成チームで進めます。

役割は固定せず、状況に応じて柔軟に関わってください。困ったときは、まずチーム内で相談することを基本とします。



11

本授業は、学年混成チームで進めます。2年生が支える立場、1年生が実践する立場、という役割はありますが、固定的なものではありません。状況に応じて、お互いに柔軟に関わってください。分からないとき、迷ったときは、まずチーム内で相談することを基本とします。すぐに答えを求めるのではなく、まずは「チームで考える」。そのプロセス自体が学びになります。この授業では、チームで取り組む姿勢そのものも評価対象です。安心して話し合い、支え合いながら進めていきましょう。

アイスブレイク①：自己紹介

- 名前・学年
- 目指している職種
- 最近ちょっと頑張ったこと

※ 短く・気軽にでOK



12

それでは、まずはアイスブレイクです。今日は簡単な自己紹介をしてもらいます。お話ししてほしいのは、名前と学年、目指している職種、そして最近ちょっと頑張ったこと。長く話す必要はありません。短く、気軽にで大丈夫です。うまく話そうとしなくて大丈夫ですし、完璧である必要もありません。まずは、学年を越えて声を出すことから始めましょう。では、チームごとにお願いします。

アイスブレイク②：骨学との距離

骨学について、今感じていることを
共有します。

不安や苦手意識があっても構いません。
正直な気持ちを出すことが、これからの学び
の出発点になります。



13

次は、骨学との距離について共有します。今、骨学に対してどんな気持ちを持っていますか。「難しそう」「覚えきれない」「正直ちょっと苦手」そう思っていても大丈夫です。この時間は、不安や苦手意識も含めて共有する場です。無理に前向きなことを言わなくても構いません。正直な気持ちを出すことが、これからの学びの出発点になります。まずはチーム内で、今の率直な気持ちを話してみてください。

この授業の全体像

■ 前半（第1～5回）→ 協働制作・説明する練習・関係づくり

■ 後半（第6～10回）→ 骨学整理・口頭試問・反復学習（国試対策）



14

この授業は、大きく前半と後半に分かれています。前半、第1回から第5回までは、協働制作を通して理解を深め、説明する練習と関係づくりを行います。まずは「分かる」状態から、「説明できる」状態へと高める期間です。そして後半、第6回から第10回は、骨学を整理し、口頭試問や反復学習を通して、答えられる力をつくります。前半で土台をつくり、後半で実戦力に変えていく。この流れを意識しながら、10回を積み重ねていきます。

大切にしてほしい3つの姿勢

1. 「分からない」は言ってよい
2. 何となくではなく、根拠を大切にする
3. 間違いは、学習のチャンスと考える



15

この授業で、大切にしてほしい姿勢が3つあります。1つ目。「分からない」は言ってよい、ということ。分からないと口にできる人が、いちばん伸びます。2つ目。何となくではなく、根拠を大切にすること。位置関係や教材をもとに、理由を説明できるようにしましょう。3つ目。間違いは、学習のチャンスだと考えること。間違えた瞬間が、いちばん理解が深まるタイミングです。この3つを守ることで、安心して挑戦できる学習環境ができます。ぜひ、意識して取り組んでください。

チームルールづくり

1. チーム名を決める
2. 安心して学ぶための約束を決める
   - チームごとに3つ程度
   - 否定しない・話しやすい内容を意識



16

ここから、チームルールを決めていきます。まず1つ目。チーム名を決めましょう。名前があるだけで、チームはぐっと一体感が生まれます。2つ目。安心して学ぶための約束を決めます。ポイントは2つ。1つ、チームごとに3つ程度でOK。多すぎると守れません。もう1つ、「否定しない」「話しやすい雰囲気をつくる」など、安心につながる内容を意識してください。この時間は、正解を決める時間ではありません。これからの学びを支える“土台”をつくる時間です。しっかり話し合って決めていきましょう。

成果物：「協働学習スタートシート」

項目	内容
チーム名	
メンバー	1年生： 2年生：
大切にしたいルール	1． 2． 3．

17

17

全体発表

「協働学習スタートシート」に沿って発表

1. チーム名、メンバー紹介
2. 決めたルール
3. 話してみて感じたこと
（1チーム 約1分）



18

それでは、全体発表に入ります。「協働学習スタートシート」に沿って発表してください。発表内容は3つです。1つ目、チーム名とメンバー紹介。2つ目、みなさんで決めたルール。3つ目、話してみて感じたこと。1チーム約1分です。うまく話すことが目的ではありません。「自分たちの言葉で伝えること」が大切です。聞く側も、評価するのではなく、「どんなチームになりそうか」を感じながら聞きましょう。では、最初のチームからお願いします。

18

今日の振り返り

- 今日、自分がチームに貢献できたこと
- 分かったこと・気づいたこと
- 次回、意識したいこと



19

では、最後に今日の振り返りを行います。今日の授業で大切なのは、「何をやったか」よりも「自分はどう関わったか」です。振り返ってほしいのは3つです。1つ目、今日、自分がチームに貢献できたこと。小さなことでも構いません。2つ目、分かったこと・気づいたこと。内容だけでなく、関わり方でもOKです。3つ目、次回、意識したいこと。学びは“続き”があります。今日の気づきを、次回につなげてください。

19

振り返りシート

項目	内容
今日の授業テーマ	
今日できたこと・ 貢献できたこと	
今日分かったこと 理解が深まったこと	
今日分からなかったこと 迷っていこと	
次回に向けての一言	

20

20

次回は、２年生による
学習紹介と、
骨学の導入体験をします



21

次回は、2年生による学習紹介を行います。そして、いよいよ骨学の導入体験に入ります。今日つくった「安心して関われる土台」をもとに、少しずつ学びを深めていきましょう。

第２回

2年生による学習紹介
＋導入体験

22

今日は、2年生による学習紹介と導入体験です。これから皆さんが取り組んでいく骨学を、少し先を歩いている先輩たちがどう学んできたのかを聞きます。そして実際に、骨学に触れてみます。「難しそう」から「やってみよう」へ。今日はその一歩です。

今日のテーマ：学習の「見通し」を持つ

先輩の経験から、これからの学びを具体化します。

- 第2回の位置づけ
- 2年生の経験から学ぶ
- 骨学学習への導入



23

今日のテーマは「学習の見通しを持つ」です。いきなり骨学を本格的に始めるのではなく、まずは“これから何をどう学んでいくのか”を具体的にします。今日は、第2回の位置づけを確認し、2年生の経験から学び、そして骨学への第一歩を踏み出します。見通しがあると、不安は小さくなります。

なぜ先輩の話を聞くのか

経験は、これからの学習のヒントになります。

- 教科書には載っていない学習の工夫
- つまずきやすいポイント
- 乗り越え方の実例



24

なぜ、先輩の話を聞くのでしょうか。経験は、これからの学習のヒントになるからです。教科書には載っていない工夫や、実際につまずきやすいポイント、どうやって乗り越えたのか。そうした“リアルな声”を聞くことで、自分の学びの準備ができます。今日は、そのヒントを受け取る時間です。

それぞれの関わり方

- **2年生**
  - ✓ 教えるより、支える役割です。
    - 答えをすぐに言わない
    - 見方・考え方を伝える
    - 正確さをさりげなく確認
- **1年生**
  - ✓ 分からないを出すことが役割です。
    - 積極的に質問する
    - 気づいたことを言葉にする
    - 正確さを一緒に確認する



この授業では、学年によって役割が違います。2年生は、教える人ではありません。支える人です。答えをすぐに言うのではなく、どう考えたかを伝える。そして、正確さを一緒に確認する。一方で1年生は、「分からない」を出すことが役割です。遠慮は必要ありません。分からないと言うことが、この授業を前に進めます。

2年生ミニ発表①：学びの進め方

どのように勉強してきたのかを共有します。

- 骨学の勉強方法
- 授業・復習の工夫
- 自分なりの習慣



今日は、2年生から「骨学をどうやって学んできたか」を共有してもらいます。教科書の内容そのものではなく、学び方の話を聞く時間です。骨学は、覚える量も多く、最初は戸惑う人がほとんどです。だからこそ大事なのは、「何を覚えるか」だけではなく、どう取り組むかです。今日のポイントは3つあります。1つ目は、骨学の勉強方法。どうやって理解しようとしてきたのか。2つ目は、授業や復習の工夫。うまくいかなかった時に、どう変えたのか。3つ目は、自分なりの習慣。続けるために何をしていたのか。大事なのは、「正解の方法を探す」ことではありません。それぞれに合ったやり方があります。今日の話を聞いて、「これならできそう」と思えるヒントを1つでも持ち帰ってください。では、2年生の皆さん、よろしくお願いします。

2年生ミニ発表②：つまずきと克服

誰もが悩んだ経験があります。

- 苦手だった内容
- 混乱しやすかった点
- どう整理したか



ここからは、うまくいった話だけでなく、つまずいた経験を共有してもらいます。骨学は、誰でも一度は悩みます。混乱することもあります。大切なのは、・何が苦手だったのか・どこで混乱したのか・どう整理していったのかこの3つです。「できた話」よりも、どう乗り越えたかのほうが、後輩のヒントになります。完璧でなくて大丈夫です。正直な経験を、ぜひ聞かせてください。では、お願いします。

2年生　学習経験共有シート

項目	内容
1年生のときの正直な状況	• 当時、特に不安だった科目・内容 • 「ここがよく分からなかった」と感じていた点
骨学の学習でつまずいたポイント	• つまずいた内容 • 当時なぜ難しかったと思ったのか
それをどう乗り越えたか	• 実際にやって効果のあったこと • 「今思うと、これが大事だった」と感じること
学習のコツ（1年生に伝えたいこと）	• 勉強の進め方の工夫 • 骨学を見るときに意識していたこと
1年生へのメッセージ	• 気持ち面のサポート

質問タイム

気になったことをその場で聞きます。

- 分からなかった点
- もっと聞いてみたいこと

※学習面・気持ちの面どちらでもOK



29

ここからは質問タイムです。今の発表を聞いて、気になったことをその場で聞いてみましょう。「分からなかった点」でもいいですし、「もっと詳しく聞いてみたいこと」でも構いません。学習内容についてでも、勉強の気持ちの面についてでもOKです。遠慮しなくて大丈夫です。質問することも、学びの一部です。では、手を挙げてみましょう。

1年生　先輩の学び共有シート

項目	内容
印象に残った先輩の話	
自分の学習に取り入れてみたいこと	
骨学に対する気持ちの変化	該当するものに○＋一言 難しそう → □ 少し分かりそう □ まだ不安 □ 変わらない 理由：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
2年生への感謝のメッセージ	

30

今日から始める骨学の導入体験

骨学を「触れて」「確かめる」時間です。

- 模型・図譜を使った確認
- 骨の位置・向きの把握

※安全に配慮して実施

31

ここからは、骨学の導入体験を行います。今日は「覚える」時間ではありません。骨を触れて、確かめる時間です。模型や図譜を使いながら、実際に位置や向きを確認していきます。「どこにあるのか」「どちらを向いているのか」を、自分の目と手で確かめてください。分からないところがあれば、そのままにせず声に出しましょう。安全に配慮しながら進めます。落とさない、ぶつけない、丁寧に扱うことを意識してください。それでは始めましょう。

今日のポイント整理

今日学んだことを整理します。

- 学習の進め方のヒント
- 骨学を見る視点
- 学年混成で学ぶ感覚

32

それでは、今日のポイントを整理します。今日はまず、「どう学ぶか」というヒントを共有しました。勉強は量だけではなく、見方や考え方が大切だということです。次に、骨学を見る視点。位置・向き・根拠を意識することが重要でした。そして、学年を超えて学ぶ感覚。教える側も学び、学ぶ側も考える。その中で理解が深まることを体験しました。今日の学びを、自分なりの言葉で整理してみてください。

今日の振り返り

- 今日、自分がチームに貢献できたこと
- 分かったこと・気づいたこと
- 次回、意識したいこと



33

では、最後に今日の振り返りを行います。今日の授業で大切なのは、「何をやったか」よりも「自分はどう関わったか」です。振り返ってほしいのは3つです。1つ目、今日、自分がチームに貢献できたこと。小さなことでも構いません。2つ目、分かったこと・気づいたこと。内容だけでなく、関わり方でもOKです。3つ目、次回、意識したいこと。学びは“続き”があります。今日の気づきを、次回につなげてください。

振り返りシート

項目	内容
今日の授業テーマ	
今日できたこと・ 貢献できたこと	
今日分かったこと 理解が深まったこと	
今日分からなかったこと 迷っていこと	
次回に向けての一言	

34

次回から
協同制作が始まります。



35

それでは最後にお知らせです。次回から、いよいよ協同制作が始まります。今日学んだ「見通しを持つこと」や「支え合う姿勢」を、実際の活動の中で活かしていきましょう。一人で頑張るのではなく、チームで考え、チームで形にしていきます。次回を楽しみにしていてください。

第3回

協同制作①
（正確理解→設計）

36

それでは、第3回が始まります。今日からいよいよ「協同制作」に入ります。テーマは、正確に理解し、設計することです。なんとなく分かった、ではなく、「本当に理解できているか」をチームで確かめます。そのうえで、どう形にしていくのかを設計していきます。理解があいまいなまま進めると、あとで大きなズレになります。今日はまず、正しく捉え、整理し、方向をそろえるところから始めましょう。

今日やることの流れ

理解 → 言語化 → 設計、の順で進めます。

① 参照教材を確認する
② 位置関係を言葉で説明する
③ 補助教材の形を決める
④ 設計シートにまとめる



37

今日の流れを確認します。今日は、理解 → 言語化 → 設計この順番で進めます。まず①参照教材を確認します。思い込みではなく、事実を押さえます。次に②位置関係を言葉で説明します。「分かっているつもり」を、言葉にして確かめます。そして③補助教材の形を決めます。誰にとって、どう分かりやすいかを考えます。最後に④設計シートにまとめます。考えを整理し、形にします。焦らず、一つずつ進めていきましょう。

37

①参照教材を確認する

必ず「根拠」を持って考えます。

- 模型・図譜・教科書を使用
- 記憶や感覚だけに頼らない
- 出典を明確にする



38

まず最初に行うのは、参照教材の確認です。必ず「根拠」を持って考えます。なんとなくの記憶や感覚では進めません。模型・図譜・教科書を使い、事実を確認しながら理解します。そして、どこを根拠にしたのか、出典を明確にしましょう。正確さは、ここから始まります。

38

②位置関係を言葉で説明する

「見る」だけでなく「言う」ことで理解が深まります。

- 上・下／前・後／内・外／右・左
- 短い文章で分かりやすく説明
- 間違ったら言い直す



39

次に行うのは、位置関係を言葉で説明することです。「見る」だけでなく、「言う」ことで理解は深まります。上・下、前・後、内・外、右・左。方向の言葉を正しく使い、短い文章で分かりやすく伝えましょう。もし間違えたら、すぐに言い直せば大丈夫です。言語化することが、正確な理解につながります。

39

ミニワーク：参照教材から出題チャレンジ

ミニワークの目的
- 参照教材を根拠に、正確に説明できるかを確かめる

進め方
- 2年生が参照教材（模型・図譜）を見て出題
- 1年生は言葉だけで答える
- 答えはすぐに教材で確認する

出題のポイント（2年生）
- 位置関係（上下・前後・内外・左右）を含める
- 用語を答えさせるだけにしない
- 1問20〜30秒で答えられる内容にする

答えるときのポイント（1年生）
- まず結論（名称・部位）を言う
- 位置関係を言葉で補足する
- 分からなければ「どこが曖昧か」を伝える



40

ここからミニワークに入ります。目的は、参照教材を根拠に、正確に説明できるかを確かめることです。進め方です。2年生は、模型や図譜を見て出題します。1年生は、見ずに「言葉だけ」で答えます。答えはすぐに教材で確認します。2年生は、位置関係――上・下、前後、内外、左右――を必ず含めてください。用語を当てるだけの問題にはしません。1問20〜30秒で答えられる内容にします。1年生は、まず結論、つまり名称や部位を言います。そのあと、位置関係を言葉で補足してください。もし曖昧な点があれば、「どこが分からないか」をはっきり伝えましょう。正確さは、根拠から生まれます。それでは始めましょう。

40

各学年の役割

２年生の役割 （質問者）	１年生の役割 （回答者）
答えを言わず、正確さを支えます	**分からないを言葉にする役です**
• すぐに正解を言わない • 見るポイントを示す • 用語・位置関係をチェック	• 分からない点を口に出す • 説明を試してみる • 間違いを恐れない
正解は言わずに、参照教材の該当ページを示してください	今自分が答えられる範囲で、頑張って言葉にしてみてください

41

ここで、もう一度それぞれの役割を確認します。まず、2年生の役割です。2年生は「質問者」です。答えを言う人ではありません。正確さを“支える人”です。すぐに正解を言わないでください。その代わりに、「どこを見るとよいか」を示します。そして、用語や位置関係が正しいかをチェックします。もし答えが違っていても、正解は言いません。参照教材の該当ページを示し、根拠に戻してあげてください。次に、1年生の役割です。1年生は「回答者」です。分からないことを、きちんと言葉にする役割です。分からない点を口に出してください。そして、自分なりに説明を試みてください。間違えても大丈夫です。大切なのは、考えたことを言葉にすることです。それぞれの役割を意識して、学年混成の学びを深めていきましょう。

41

補助教材の形を決める

自分にとって役に立つ方法を選びます。

- マップ／カード／誤り探し 等
- 覚えるのに向いているか
- 今後の対策にも使えるか

ここでは、完成度より「使いやすさ」を重視します。
覚えるときに役立つ形かどうかを基準に考えてください。

42

ここでは、補助教材の形を決めます。目的は、「きれいに作ること」ではありません。自分にとって役に立つ形を選ぶことです。例えば、全体像を整理するマップ形式、用語を確認するカード形式、理解度を試す誤り探し形式などがあります。大切なのは、それが“覚えるときに使いやすいか”どうか。そして、今後の復習や対策にも使えるかどうかです。ここでは、完成度よりも「使いやすさ」を重視します。自分が繰り返し見たくなる形かどうかを基準に、選んでください。

42

補助教材の形


マップ


カード



誤り探し

制作テーマは3種類
- マップ
- カード
- 誤り探し

共通ルール
- 必ず参照教材を根拠にする
- 正確さを最優先する
- 説明できる形にする

選び方のヒント
- 位置関係が不安 → マップ
- 用語が混同しやすい → カード
- 分かっているつもりが多い → 誤り探し

43

補助教材の形は、3種類から選びます。マップ、カード、誤り探しです。どの形式でも共通して大切なのは、必ず参照教材を根拠にすること。そして、正確さを最優先にすること。さらに、自分が説明できる形にすることです。選び方のヒントです。位置関係が不安な人は「マップ」。用語が混同しやすい人は「カード」。分かったつもりが多い人は「誤り探し」。自分の弱点に合った形を選んでください。目的は作品づくりではなく、理解を深めることです。

43

補助教材の制作設計シートを作る

考えたことを形に残します。

- 参照教材の明記
- 説明する際のポイント
- 内容の整理



44

最後に、補助教材の制作設計シートを作ります。考えたことを、きちんと形に残す時間です。まず、参照教材を明記します。どのページ・どの図を根拠にしたのかをはっきりさせましょう。次に、説明する際のポイントを書きます。どの位置関係を強調するのか、どの用語に注意するのかを整理します。そして、内容を簡潔にまとめます。結論 → 位置関係 → 補足、の順に整えると分かりやすくなります。設計シートは、制作のためだけでなく、自分の理解を確認するための道具です。丁寧にまとめていきましょう。

44

補助教材の制作設計シート

項目	内容
今回扱う骨・部位・範囲を明確にする	骨・部位名：＿＿＿＿＿＿＿＿ 範囲（例：近位部のみ／関節周囲）：＿＿＿＿＿＿
参照教材（根拠の明示）	使用する教材（チェック） □ 骨模型 □ 図譜 □ 教科書 □ その他（＿＿＿＿） 教材名・ページ番号 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
正確に説明したいポイント	※ 位置関係を中心に、言葉で書く 上・下：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 前・後：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 内・外：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 右・左：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
説明の要点（30秒）	※ 短く・正確に ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
補助教材の形	教材形式（○をつける） マップ ／ カード ／ 誤り探し ／ その他（＿＿＿＿） この形を選んだ理由 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

45

45

今日の振り返り

- 今日のミニワークで感じたこと
- 「分かっているつもり」だったと気づいた点
- 今日あらためて「正確に理解できた」こと
- 制作設計で大切にしようと思ったこと
- 次回に向けて一言



46

最後に、今日の振り返りを行います。まず、今日のミニワークで感じたことを思い出してみましょう。うまくいったこと、難しかったこと、どちらも大切な気づきです。次に、「分かっているつもり」と気づいた点はありませんでしたか。言葉にしてみると、曖昧さが見えてきた人もいると思います。そして、今日あらためて正確に理解できたことは何でしょうか。参照教材を根拠に説明できた内容を振り返ってみてください。さらに、制作設計を通して、「これだけは大切にしよう」と思ったことも整理しましょう。正確さか、分かりやすさか、それとも使いやすさか。最後に、次回に向けて一言。自分は何を意識して取り組むのか、短く言葉にしてみましょう。振り返りは、次の成長の準備です。丁寧に、自分の学びを確認していきましょう。

45

46

振り返りシート

項目	内容
今日のミニワークで感じたこと	
「分かっているつもり」だったと気づいた点	
今日あらためて「正確に理解できた」こと	
制作設計で大切にしようと思ったこと	
次回に向けての一言	

47

47

次回は、
今日の設計をもとに、
実際の制作に入ります。



48

次回は、いよいよ実際の制作に入ります。今日みなさんが考えた設計――参照教材の根拠、説明のポイント、内容の整理。それらをもとに、形にしていきます。大切なのは、「なんとなく作る」のではなく、根拠のある設計をもとに作ることです。今日の設計シートを見直しながら、正確さと分かりやすさを意識して取り組みましょう。準備は整っています。次回から、本格的な協同制作が始まります。

47

48

第4回

協同制作②
（制作＋正確性チェック）

49

今日はいよいよ、制作を進めながら、正確性をチェックする回です。前回つくった設計をもとに、実際の形にしていきます。ただし、今日のポイントは「作ること」だけではありません。必ず、正確かどうかを確認しながら進めること。・参照教材を根拠にしているか・位置関係や用語は正しいか・説明として伝わる形になっているか協同制作では、作る人と、チェックする人の両方の視点が大切です。完成度よりも、根拠のある正確な内容を優先しましょう。今日も、理解 → 言語化 → 確認、この流れを意識して進めます。

正確さを確認しながら形にする

「作る」と「確かめる」を同時に行います。

- 補助教材を協同制作するフェーズ
- 設計 → 制作へ
- 正確性を意識しながら進める



50

ここからは、「作る」と「確かめる」を同時に行う時間です。ただ形を整えるのではなく、正しい内容になっているかを確認しながら進めます。今日は、補助教材を協同で制作するフェーズです。前回の設計をもとに、実際の制作へ入ります。そのとき大切なのは、・参照教材に根拠があるか・位置関係や用語は正確か・説明として伝わる内容かこの3点を意識することです。完成を急ぐよりも、正確さを優先すること。「これで合っているかな？」とお互いに問いかけながら進めていきましょう。

今日のゴール

- 設計内容を形にする
- 正確性を確認し、必要に応じて修正する
- 口頭試問で説明できる状態に近づける



51

今日は、この3つをゴールにします。まず一つ目。設計内容を、実際の形にすること。アイデアのままにせず、具体的な教材として仕上げます。二つ目。正確性を確認し、必要に応じて修正すること。参照教材を根拠に、用語や位置関係を丁寧にチェックします。そして三つ目。口頭試問で説明できる状態に近づけること。ただ作るのではなく、「自分の言葉で説明できるか」を基準に仕上げます。今日は、完成よりも説明できる完成度を目指して進めていきましょう。

制作の進め方

設計シートを必ず見ながら進めます。

- 制作設計シートを参照
- 形にしながら言葉で確認
- 迷ったら根拠に戻る

スクリプト制作中も、設計シートを常に横に置いてください。迷ったときは、「どうだったか」ではなく「どこに書いてあるか」を確認しましょう。

52

ここからは、制作の進め方です。必ず設計シートを見ながら進めます。思いつきで作らないことが大切です。まず、設計シートを参照します。次に、形にしながら、必ず言葉で確認します。「これで説明できるか？」を自分に問いかけてください。そして、迷ったら根拠に戻ります。感覚ではなく、参照教材や設計シートに立ち返りましょう。制作中も、設計シートは常に横に置いてください。迷ったときは、「どうだったか」ではなく、「どこに書いてあるか」を確認します。作ることと、確かめることを同時に進めていきましょう。

正確性チェックとは

「合っているか」を意識的に確認します。

- 用語は正しいか
- 位置関係は正確か
- 参照教材と一致しているか



スクリプト正確性チェックは、完成後にまとめて行うものではありません。作りながら、何度も確認することが大切です。

53

ここで確認するのが、正確性チェックです。正確性チェックとは、「合っているか」を意識的に確認することです。まず、用語は正しいか。言い慣れた言葉ではなく、教材に書かれている正式な名称かを確認します。次に、位置関係は正確か。上下・前後・内外・左右がずれていないかを見ます。そして、参照教材と一致しているか。自分の記憶ではなく、必ず根拠と照らし合わせます。大切なのは、完成してからまとめて確認するのではなく、作りながら何度も確かめることです。「作る」と「確かめる」を、同時に進めましょう。

53

各学年の役割

2年生の役割（支援者）	1年生の役割（説明者）
間違いを指摘する人ではありません。	**手を動かし、説明を試します。**
• 答えを押し付けない • 根拠を一緒に確認する • 表現のズレに気づかせる	• 実際に制作する • 説明を声に出す • 修正を恐れない
「どこを根拠にした？」と問い返しながら、一緒に確認してください。	どんどん作って、どんどん説明してみてください。

54

ここで、あらためて各学年の役割を確認します。まず、2年生は「支援者」です。間違いを指摘する人ではありません。大切なのは、答えを押し付けないこと。そして、必ず根拠を一緒に確認すること。さらに、表現のズレに気づかせることです。もし気になったら、「どこを根拠にした？」と問い返してください。正解を言うのではなく、一緒に確かめる姿勢が役割です。次に、1年生は「説明者」です。手を動かしながら、実際に制作します。そして、説明を声に出します。間違いを恐れなくて大丈夫です。修正は前進です。どんどん作り、どんどん説明してみてください。支援者と説明者、この関係が、学びを深めます。

54

説明台本をつくる

短く、正確に説明します。

- 30秒説明を意識
- 結論→位置関係→補足
- 説明台本シートを使用

作りながら、30秒でどう説明するかも考えてみましょう。言葉にできるかどうかが、理解の確認になります。

55

ここからは、説明台本をつくります。ポイントは、短く、正確に説明することです。まず意識するのは、30秒説明です。長く話すのではなく、30秒で伝え切ることを目標にします。構成はシンプルです。結論。位置関係。そして、必要な補足。この順番で話せるようにします。必ず説明台本シートを使ってください。頭の中だけで整理しないことが大切です。制作しながら、「これを30秒でどう説明するか？」を常に考えてみましょう。言葉にできるかどうか。それが、理解できているかの確認になります。

55

説明台本シート

項目	内容
結論（最初に伝えること）	「何の話か」がすぐ分かる一文
位置関係の説明	上・下／前・後／内・外／右・左 を意識
補足（特徴・注意点）	混同しやすい点・覚えるヒントなど

56

56

今日の振り返り

- 今日の制作で一番時間を使ったところ
- 正確性チェックで指摘された点
- 修正を通して気づいたこと
- 「正確に伝える」難しさについて
- 次回に向けて一言



57

最後に、今日の振り返りを行います。まず、今日の制作で一番時間を使ったところはどこだったか、考えてみましょう。次に、正確性チェックで指摘された点は何だったかを振り返ります。自分では気づけなかったズレがあったはずです。そして、修正を通して何に気づいたのか。「分かっている」と「正確に伝えられる」は違う、という実感もあったかもしれません。あらためて、「正確に伝える」ことの難しさについても考えてみましょう。最後に、次回に向けて一言。どんなことを意識して取り組みたいか、自分の言葉でまとめてみてください。

57

振り返りシート

項目	内容
今日の制作で一番時間を使ったところ	
正確性チェックで指摘された点	
修正を通して気づいたこと	
「正確に伝える」難しさについて	
次回に向けての一言	

58

58

次回は、
伝えて学びを固めます。



59

次回は、「伝える」ことを通して、学びをさらに固めていきます。自分が分かっているつもりでも、実際に人に伝えようとすると、言葉に詰まることがあります。しかし、その瞬間こそが、理解を深めるチャンスです。伝えることで、曖昧な部分がはっきりし、根拠や位置関係をより正確に整理できるようになります。次回は、説明することを通して、本当に理解できている状態を目指します。準備してきた設計を土台に、自分の言葉で、確実に伝えられる力を磨いていきましょう。

59

第５回

協同制作③
（発表・交流まとめ）

60

第5回は、協同制作の最終段階です。これまで設計し、制作し、正確性を確認してきました。今回は、それを「発表」という形で外に出します。発表は、評価の場ではありません。自分たちの理解を、言葉で確かめる時間です。説明し、聞き、質問し合うことで、学びをさらに深めていきます。そして最後に、交流を通して気づいたことをまとめます。作って終わりではありません。伝えて、確かめて、整理する。それが今回のテーマです。第5回、発表と交流を通して、学びを完成させましょう。

60

説明して、学びを固める

伝えることで、理解が完成します。

- 協同制作フェーズ最終回
- 発表と相互フィードバック
- 学びを言葉で確定させる



61

ここからは、協同制作フェーズの最終回です。今日のテーマは、「説明して、学びを固める」こと。理解は、頭の中で分かっただけでは完成しません。伝えられてはじめて、完成します。これまで作ってきた補助教材を使って発表します。そして、相互にフィードバックを行います。・どこが分かりやすかったか・どこが曖昧だったか・どこを根拠に説明していたかそれを確認し合います。説明する人も、聞く人も、学びを言葉で確定させる時間です。発表はゴールではなく、理解を仕上げるプロセスです。伝えて、確かめて、整える。今日、学びを完成させましょう。

61

今日のゴール

「説明できる理解」を実感する。



- 30秒で説明できた
- 正確さを意識して伝えられた
- 人に伝えることで理解が深まった

今日は完璧な発表を目指す必要はありません。
「ここは説明できた」「ここはまだ怪しい」と気づければ、
それが成果です。

62

今日のゴールは、「説明できる理解」を実感することです。分かったつもりではなく、実際に言葉で説明できる状態を目指します。ポイントは3つです。まず、30秒で説明できたか。短くまとめられるということは、整理されているということです。次に、正確さを意識して伝えられたか。用語や位置関係を、根拠に基づいて話せたかを確認します。そして、人に伝えることで理解が深まったか。説明してみて初めて、「あれ？」と気づくことがあります。その気づきこそが学びです。今日は、完璧な発表を目指す必要はありません。「ここは説明できた」「ここはまだ怪しい」そう気づけたら、それが成果です。説明できる理解を、体で実感しましょう。

62

発表の進め方

短く、正確に、順番を守って。



- 1チームずつ発表
- 30秒説明が基本
- 教材＋説明台本を使用

発表は30秒を目安に行います。
説明台本を見ながらで構いません。
時間と順番を意識して進めましょう。

63

ここから発表に入ります。ポイントは、短く、正確に、順番を守って です。発表は、1チームずつ行います。時間は30秒が基本です。長く話すことよりも、30秒でまとめることを意識してください。発表のときは、教科書（参照教材）と説明台本を使って構いません。大切なのは、暗記ではなく、正しく説明できることです。結論 → 位置関係 → 補足、この順番を意識して話しましょう。時間と順番を守りながら、落ち着いて進めていきましょう。

63

聞く側の役割

聞くことも、学習です。



- 分かりやすかった点
- 分かりにくかった点
- 正確さが気になった点

発表を聞く側も大切な役割です。
「ここが分かった」「ここが少し分かりにくかった」という視点で
聞いてください。

64

ここからは、聞く側の役割についてです。聞くことも、立派な学習です。ただ聞き流すのではなく、考えながら聞いてください。ポイントは3つです。1つ目、分かりやすかった点。どこが理解しやすかったのかを意識します。2つ目、分かりにくかった点。少しでも引っかかったところがあれば、大事なヒントです。3つ目、正確さが気になった点。用語や位置関係が合っているかを考えながら聞きましょう。発表する人だけでなく、聞く人も学びを深める役割を持っています。「ここが分かった」「ここが少し曖昧かも」という視点で、集中して聞いてください。

64

フィードバックの視点

評価ではなく、改善のヒントを。

- 良かった点を先に伝える
- 正確性・表現の視点
- 具体的な一言コメント



フィードバックは、相手を評価するためではありません。
次にどうすればよくなるかを伝える意識で行いましょう。

65

ここでは、フィードバックの視点について確認します。フィードバックは、評価ではありません。目的は、より良くするためのヒントを伝えることです。ポイントは3つです。1つ目、良かった点を先に伝えること。相手の強みや工夫を具体的に言葉にしましょう。2つ目、正確性と表現の視点。用語は正しいか、位置関係は合っているか、説明は分かりやすかったかを確認します。3つ目、具体的な一言コメント。「ここをこうすると、もっと伝わりやすい」といった前向きな提案を意識しましょう。フィードバックは、相手を評価するためのものではありません。次にどうすれば良くなるかを一緒に考えるためのものです。改善のヒントを届ける意識で、伝えていきましょう。

65

各学年の役割

２年生の役割	１年生の役割
学びを支える立場に徹します。 • 正確性の最終確認 • 表現の補足・言い換え • 先生への橋渡し 2年生は、必要に応じて補足してください。	**自分の言葉で伝えます。** • 台本を見てOK • 詰まっても言い直す • 正確さを意識する 1年生は、台本を見ながらで構いません。

66

ここでは、各学年の役割を確認します。まず、2年生の役割です。2年生は、学びを支える立場に徹します。・正確性の最終確認・表現の補足や言い換え・必要に応じて先生への橋渡し自分が前に出るのではなく、「より正確に伝わるように整える」ことが役割です。足りない部分があれば、さりげなく補足してください。次に、1年生の役割です。自分の言葉で伝えることが中心です。・台本を見ながらでOK・詰まっても言い直せば大丈夫・常に正確さを意識する完璧である必要はありません。伝えようとする姿勢が大切です。それぞれの立場を意識して、協力しながら進めていきましょう。

66

協同制作のまとめ

作って終わりではありません。

- 説明して理解が深まった
- ズレに気づけた
- チームで学ぶ感覚を得た



ここまでが協同制作の一区切りです。
作る→説明する→直す、という流れを経験できたこと自体が大きな成果です。

67

ここまでが、協同制作のまとめです。協同制作は、作って終わりではありません。・説明することで理解が深まったこと・説明してみてズレに気づけたこと・チームで学ぶ感覚を得られたことこれらが、今回の大きな成果です。特に大切なのは、「作る → 説明する → 直す」という流れを経験できたことです。説明できたところは、本当に理解できています。説明しづらかったところは、まだ伸びしろがあります。このプロセスそのものが、学びです。ここで一度区切りますが、この経験を次につなげていきましょう。

67

後半フェーズへの切り替え

次回から国試対策につながります。

- 骨学の整理
- 口頭試問への準備
- 反復学習が中心に



次回からは、骨学の整理や口頭試問など、国家試験を意識した内容に入ります。
今日の経験が、その土台になります。

68

ここから後半フェーズに入ります。次回からは、いよいよ国家試験対策につながる内容です。中心になるのは、・骨学の整理・口頭試問への準備・反復学習これまで行ってきた「説明する学び」は、ここで大きな意味を持ちます。国家試験では、“分かったつもり”ではなく、「正確に説明できる理解」が求められます。今日の経験は、その土台づくりでした。次回からは、より実践的に、試験を意識した形で取り組んでいきます。ここで一度気持ちを切り替えて、次のステップへ進みましょう。

68

今日の振り返り

- 実際に「説明してみて」気づいたこと
- 伝わったと感じたポイント
- 伝わりにくかったと感じたポイント
- 他チームの発表から学んだこと
- 後半に向けて一言



69

最後に、今日の振り返りを行います。まず、実際に「説明してみて」気づいたことは何ですか。分かったつもりだった部分や、意外に言葉が出てこなかった部分はありませんでしたか。次に、「伝わった」と感じたポイント。どんな工夫をしたときに、相手の反応が良かったでしょうか。そして、「伝わりにくかった」と感じたポイント。順番、言葉選び、正確さなど、改善できそうな点は何でしょう。さらに、他チームの発表から学んだことも整理してみましょう。「この言い方は分かりやすい」「この構成は真似したい」と思った点を書き出してみてください。最後に、後半フェーズに向けて一言。今日の経験をどう次につなげるか、自分なりの目標を持って締めくくりましょう。

69

振り返りシート

項目	内容
実際に「説明してみて」気づいたこと	
伝わったと感じたポイント	
伝わりにくかったと感じたポイント	
他チームの発表から学んだこと	
次回に向けての一言	

70

70

次回からは、骨学の重要ポイントを整理していきます。



71

ここから後半フェーズに入ります。次回からは、骨学の重要ポイントを整理していきます。これまでの「説明する練習」は、そのための土台でした。骨の名称や構造を、ただ覚えるのではなく、「自分の言葉で説明できる」レベルまで整理していきます。国家試験や口頭試問を意識しながら、重要なポイントを絞って、反復していきます。今日の経験を活かしながら、次回はより実践的に取り組んでいきましょう。

71

第６回

骨学①
（頻出ポイント整理）

72

第6回に入ります。今日から「骨学①」、頻出ポイントの整理です。これまでの協同制作では、“説明できる理解”を意識してきました。今回は、その力を使って、国家試験でよく問われる骨学の重要ポイントを整理していきます。ただ覚えるのではなく、・どこが問われやすいのか・どう説明すれば正確なのか・似ている構造との違いは何かこのあたりを意識しながら進めます。今日の目標は、「なんとなく知っている」から「30秒で説明できる」へ。では、骨学の整理を始めていきましょう。

72

骨学の重要ポイントを整理する

国試につながる「外せない所」を押さえます。

- 国試対策フェーズ開始
- 骨学の頻出ポイントに集中
- 正確さを最優先する



今日から、国家試験を意識した骨学の整理に入ります。
すべてを網羅するのではなく、「ここは必ず押さえる」というポイントに集中します。

73

ここから、骨学の重要ポイントを整理していきます。いよいよ、国試対策フェーズのスタートです。今日のテーマは、「全部覚える」ではありません。国試につながる“外せない所”を押さえることです。・どこが頻出なのか・どこが引っかけになりやすいのか・どこは絶対に間違えてはいけないのかこの視点で整理していきます。骨学は範囲が広いですが、すべてを網羅する必要はありません。「ここは必ず押さえる」この優先順位を明確にすることが大切です。そして何より、正確さを最優先します。あいまいな理解のまま進まないこと。今日から、国家試験を意識した骨学の整理に入ります。集中して取り組んでいきましょう。

73

なぜ「頻出」に絞るのか

量より、正確な理解が大切です。

- 出題されやすい箇所が決まっている
- 混同しやすい点で差がつく
- 正確に答えられることが重要



骨学は情報量が多く、全部を同じ重さで覚えるのは現実的ではありません。
頻出ポイントを正確に説明できることが、得点につながります。

74

では、なぜ「頻出」に絞るのかを説明します。理由はシンプルです。量よりも、正確な理解が大切だからです。国家試験では、出題されやすい箇所はある程度決まっています。そして、受験生の差がつくのは――混同しやすいポイントです。広く浅く覚えるより、「よく出るところを、正確に答えられる」ことの方が、得点につながります。骨学は情報量が非常に多い分野です。すべてを同じ重さで覚えるのは、現実的ではありません。だからこそ、・出題されやすい・混乱しやすい・必ず正確に答えるべきこの３つを軸に整理していきます。頻出ポイントを、自分の言葉で正確に説明できる。そこまで到達することが、合格への近道です。

74

今日扱う範囲

テーマを絞って進めます。

- 上肢 または 下肢（指定範囲）
- 特徴的な骨
- 国試で問われやすい部位



今日は、あらかじめ指定した範囲に絞って進めます。
広げすぎず、確実に理解することを意識してください。

75

では、今日扱う範囲を確認します。今日は、テーマを絞って進めます。広く浅くではなく、狭く深くです。扱うのは、・上肢、または下肢の指定範囲・その中でも特徴的な骨・さらに、国家試験で問われやすい部位この３つを軸に整理していきます。骨学は範囲が広いため、すべてを一度に理解しようとすると、どうしても曖昧になります。今日は、あらかじめ指定した範囲だけに集中します。横に広げるのではなく、「ここは確実に説明できる」という状態を作ることが目的です。量を増やすことよりも、確実に理解し、正確に説明できることを意識してください。

75

骨を見るときの基本視点

まずは「どこを見るか」をそろえます。

- 骨の向き（前後・左右）
- 特徴的な突起・窪み
- 他の骨との位置関係



骨学では、どこを見るかの視点がそろっていないと混乱します。
まずはこの3点を必ず確認する癖をつけましょう。

76

では、「骨を見るときの基本視点」を確認します。まず大切なのは、どこを見るかを全員でそろえることです。骨学で混乱する原因の多くは、見るポイントが人によってバラバラなことにあります。今日そろえるのは、この３つです。1つ目、骨の向き。前後・左右をまず確認します。向きを間違えると、その後の理解はすべてずれてしまいます。2つ目、特徴的な突起やくぼみ。出っ張りやへこみは、名称問題や機能理解の鍵になります。3つ目、他の骨との位置関係。単体で覚えるのではなく、「どの骨とどうつながるか」を必ず意識します。骨学では、見る視点がそろっていないと混乱します。まずは毎回、この3点を確認する癖をつけましょう。見る順番を固定することが、正確な理解への第一歩です。

76

骨学まとめシートを作る

要点を一枚に整理します。

- 頻出ポイントの整理
- 見分けのポイント
- 混同注意点の記載

後で見返したときに、「ここを見れば思い出せる」形を意識してください。

77

では、「骨学まとめシート」を作っていきます。目的は、要点を一枚に整理することです。情報を増やすのではなく、「ここだけは押さえる」という形にまとめます。整理するポイントは３つです。1つ目、頻出ポイントの整理。国家試験で繰り返し問われる部分を明確にします。2つ目、見分けのポイント。似ている骨との違いを一言で説明できる形にします。3つ目、混同しやすい注意点。自分が間違えやすいところを、あえて書き出します。まとめシートは、あとで見返したときに「ここを見れば思い出せる」形になっていることが大切です。完璧な資料を作る必要はありません。思い出すための地図を作るという意識でまとめていきましょう。

77

各学年の役割

２年生の役割	１年生の役割
理解のズレを早めに修正します。 • 混同しやすい点を示す • 言葉の使い方を整える • 根拠教材に戻す支援 2年生は、「ここは間違えやすい」というポイントを共有してください。	**自分で説明して理解を確認します。** • 骨の特徴を言葉にする • 分からない点を質問する • 曖昧なままにしない 1年生は、理解したつもりで進まないことが大切です。

78

ここで、もう一度「各学年の役割」を確認します。まず、2年生の役割です。役目は、理解のズレを早めに修正することです。・混同しやすい点を示す・言葉の使い方を整える・根拠となる教材に戻す答えを与えるのではなく、「ここは間違えやすいよ」と方向を示してください。正しさに戻すサポートが役割です。次に、1年生の役割です。自分で説明して、理解を確認します。・骨の特徴を言葉にする・分からない点は質問する・曖昧なまま進めない大切なのは、「分かったつもり」で終わらないことです。2年生は支える立場、1年生は言葉にする立場。それぞれの役割を意識して、学びの質を高めていきましょう。

78

骨学まとめシート（1/2）

項目	内容
対象となる骨・部位	骨名：＿＿＿＿＿＿＿＿ 範囲（例：近位部・遠位部・関節面）：＿＿＿＿＿＿
骨の向き・位置関係	上・下：＿＿＿＿＿＿＿＿ 前・後：＿＿＿＿＿＿＿＿ 内・外：＿＿＿＿＿＿＿＿ 右・左（左右差がある場合）：＿＿＿＿＿＿＿＿
特徴的な骨指標・ランドマーク	骨指標名①：＿＿＿＿＿＿＿＿ 特徴・位置：＿＿＿＿＿＿＿＿ 骨指標名②：＿＿＿＿＿＿＿＿ 特徴・位置：＿＿＿＿＿＿＿＿ ※必要に応じて追加

79

骨学まとめシート（2/2）

項目	内容
他の骨・関節との関係	関節をつくる骨：＿＿＿＿＿＿＿＿ 近くにある重要な骨・構造：＿＿＿＿＿＿＿＿
混同しやすいポイント	混同しやすい骨・部位：＿＿＿＿＿＿＿＿ 間違えやすい理由：＿＿＿＿＿＿＿＿ 見分けるポイント：＿＿＿＿＿＿＿＿
参照教材	使用教材：□ 骨模型 □ 図譜 □ 教科書 □ その他 教材名・ページ：＿＿＿＿＿＿＿＿

80

80

今日のまとめ

頻出ポイントを整理できました。

- 重要な骨の特徴
- 見る視点がそろった
- 正確さへの意識が高まった



今日扱ったポイントは、今後何度も出てきます。
今日の整理を、次回以降も使っていきましょう。

81

それでは、今日のまとめです。今日は、骨学の頻出ポイントを整理しました。まず、重要な骨の特徴を押さえました。ただ名前を覚えるのではなく、「どこが特徴なのか」を言葉で確認しましたね。次に、骨を見るときの視点をそろえました。向き、突起やくぼみ、位置関係。見るポイントが統一されると、混乱が減ります。そして何より、正確さを意識する姿勢が高まりました。今日扱ったポイントは、これから何度も出てきます。一度きりで終わらせず、今日の整理を、次回以降も使い続けてください。積み重ねが、確実な得点につながります。

今日の振り返り

- 理解がはっきりしたポイント
- 曖昧さに気づいたポイント
- 混同しやすいと感じたところ
- 言葉で説明してみて分かったこと
- 次回に向けて一言



82

それでは、今日の振り返りを行います。まず、理解がはっきりしたポイントは何でしょうか。「ここは自信を持って説明できる」と思えた部分を思い出してください。次に、曖昧さに気づいたポイントです。分かったつもりだったけれど、言葉にすると止まったところはありませんか。そして、混同しやすいと感じたところ。似ている構造や名称、左右や向きの判断など、迷った部分を整理しましょう。さらに、実際に言葉で説明してみて分かったこと。説明することで、理解が深まった点や、逆に抜けに気づいた点があったはずです。最後に、次回に向けて一言。「ここをもう一度確認する」「次はもっと正確に説明する」など、具体的な目標を持ちましょう。振り返りは、理解を定着させる時間です。今日の気づきを、次回につなげていきましょう。

振り返りシート

項目	内容
今日の授業テーマ	
理解がはっきりしたポイント	
曖昧さに気づいたポイント	
混同しやすいと感じたところ	
言葉で説明してみて分かったこと	
次回に向けての一言	

83

次回は、
口頭試問の
答え方の練習に入ります。



84

次回からは、口頭試問の答え方の練習に入ります。これまでは、骨学の重要ポイントを整理し、正確に理解することに集中してきました。次は、それを「言葉で正しく答える力」に変えていきます。口頭試問では、・短く・正確に・順序立てて答えることが求められます。知っているだけでは不十分です。相手に伝わる形で説明できて、初めて得点につながります。これまで整理してきた頻出ポイントが、そのまま武器になります。次回は、それを実践形式で練習していきましょう。

第７回

口頭試問①
（答え方の型）

85

第7回は、口頭試問①「答え方の型」です。これまで整理してきた骨学の知識を、いよいよ「試験で使える形」にしていきます。口頭試問では、知っているかどうか以上に、どう答えるかが評価されます。・結論から言う・順序立てて説明する・専門用語を正しく使うこの「型」を身につけることで、同じ知識でも得点力が大きく変わります。今日は、答え方の基本パターンを確認し、実践につなげていきましょう。

短く正確に答える力を身につける

「分かっている」を、言葉で示す。



- 口頭試問対策（基本フェーズ）
- 答え方の「型」を学ぶ
- 正確さ＋時間を意識

今日は、骨学の内容を「どう答えるか」に取り組みます。
知っているだけでなく、短く正確に言えることが目標です。

86

ここからは、短く正確に答える力を身につけていきます。口頭試問では、「分かっているつもり」ではなく、分かっていることを言葉で示せるかが評価されます。今日の位置づけは、口頭試問対策の基本フェーズです。まずは、答え方の「型」を学びます。・結論を先に言う・必要な特徴を押さえる・余計な説明を広げすぎないそしてもう一つ大切なのは、正確さと時間の意識です。長く話せば良いわけではありません。短く、的確に、専門用語を使って答えること。今日は、骨学の内容そのものではなく、「どう答えるか」に集中します。知識を、“使える形”に変えていきましょう。

なぜ口頭試問を行うのか

理解の曖昧さは、声に出すと分かります。



- 暗記と理解の違いが分かる
- 曖昧な点が可視化される
- 国試・臨床の説明力につながる

声に出して答えてみると、「分かったつもり」がすぐに見えてきます。
それに気づくことが、今日の一番の価値です。

87

では、なぜ口頭試問を行うのでしょうか。理解の曖昧さは、頭の中では気づきにくいものです。しかし、声に出した瞬間に明らかになります。まず、暗記と理解の違いがはっきりします。丸暗記は止まりやすく、言葉がつながりません。本当に理解していれば、自分の言葉で説明できます。次に、曖昧な点が可視化されます。「あれ、どう言えばいいんだろう？」その詰まりこそが、学習の伸びしろです。そして、これは国試だけでなく、将来の臨床での説明力にも直結します。患者さんや他職種に説明できる力は、今ここで養います。声に出してみると、「分かったつもり」がすぐに見えてきます。それに気づけること。それが、今日の一番の価値です。

今日のゴール

完璧さより「型」を身につける。



- 20～30秒で答えられた
- 答える順番を意識できた
- どこが曖昧か分かった

今日は満点を取る回ではありません。
「この順番で答えればいいんだ」と分かれば十分です。

88

では、今日のゴールを確認します。今日の目的は、完璧になることではありません。大事なのは、「答え方の型」を身につけることです。まず一つ目。20～30秒で答えられたか。長く話すのではなく、必要なことを短くまとめられたかを意識します。二つ目。答える順番を意識できたか。いきなり細かい話に入らず、全体 → 特徴 → 補足、という流れを守れたかを確認します。三つ目。どこが曖昧か分かったか。詰まった部分こそ、今日の収穫です。今日は満点を取る回ではありません。「この順番で答えればいいんだ」と分かれば、それで十分です。型ができれば、あとは中身を磨くだけです。今日はその土台をつくりましょう。

口頭試問の基本構造

答え方には型があります。

- 結論（何の話か）
- 理由・位置関係
- 補足（特徴・注意点）



いきなり細かい説明から入らず、
まず「何についての話か」を伝えることが大切です。

89

ここから、口頭試問の基本構造を確認します。答え方には「型」があります。思いつきで話すのではなく、順番を守ることが重要です。まず一つ目、結論。「何の話か」を最初に伝えます。相手にテーマを示すことが第一歩です。二つ目、理由・位置関係。なぜそう言えるのか。どこにあって、何とどう関係しているのか。ここで理解の深さが分かれます。三つ目、補足。特徴や注意点、混同しやすいポイントを簡潔に付け加えます。いきなり細かい説明から入らないこと。まず「何についての話か」をはっきりさせる。この順番を守るだけで、答えは格段に整理されます。今日から、この型を意識して話していきましょう。

20～30秒の時間感覚

長すぎても、短すぎても伝わりません。

- 目安は20～30秒
- 話しすぎない
- 必要最小限を選ぶ

国試の口頭試問では、だらだら話すと評価されません。
「何を言わないか」を選ぶことも重要です。

90

ここでは、20～30秒の時間感覚を身につけます。長すぎても、短すぎても伝わりません。目安は20～30秒です。まず意識することは三つ。一つ目、20～30秒に収めること。ダラダラ続けない。二つ目、話しすぎないこと。知っていることを全部言う必要はありません。三つ目、必要最小限を選ぶこと。「何を言うか」だけでなく、「何を言わないか」を選ぶ力が重要です。国試の口頭試問では、整理されていない長い説明は評価されません。短く、正確に、順番どおりに。この時間感覚を、今日から意識していきましょう。

各学年の役割

２年生の役割 （試験官役）	１年生の役割 （受験者役）
評価ではなく、確認役です。 • 質問を出す • 正確さを確認 • 答え方の型をフィードバック 答え方のどこが良くて、どこを直せばよいかを伝えてください。	**途中で止まっても大丈夫です。** • 型を意識して答える • 詰まったら言い直す • 分からない所を自覚する 詰まっても、途中で止まっても問題ありません。 「どこで止まったか」を自覚することが大切です。

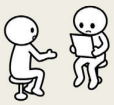
91

ここでは、各学年の役割を確認します。まず2年生。今日は試験官役ですが、評価者ではありません。役割は「確認」です。・質問を出す・正確さを確認する・答え方の型をフィードバックするどこが良かったのか。どこを直せばもっと良くなるのか。具体的に伝えてください。次に1年生。今日は受験者役です。途中で止まっても大丈夫です。大切なのは、・型を意識して答えること・詰まったら言い直すこと・分からない所を自覚すること完璧に言うことが目的ではありません。「どこで止まったか」に気づくことが、成長につながります。お互いに、確認と練習の場として取り組みましょう。

口頭試問の進め方

短いサイクルで回します。

- 1人1問ずつ
- 2年生が質問し、1年生が回答
- その後、2年生からフィードバック
- 質問 → 回答 → フィードバック
- 口頭試問ログシートに記録



1問ずつ、テンポよく進めます。回答時を測りましょう。
答えた内容とフィードバックは、必ずログに残してください。

92

それでは、口頭試問の進め方を確認します。質問は1人1問ずつで行います。2年生が質問し、1年生が回答する流れです。1年生が回答した後に、2年生は1年生に回答についてのフィードバックをしてください。つまり、２年生の質問、1年生の回答、２年生によるフィードバックという流れです。テンポよく進め、質問に対する回答時間も測りましょう。最後に、答えた内容とフィーバックは、口頭試問ログシートに記録して残しておきましょう。

今日のまとめ

答え方の土台ができました。

- 型を意識できた
- 曖昧な点が分かった
- 練習すれば伸びる感覚を得た



今日感じた「難しさ」は、練習で必ず改善できます。
答え方の型を、これからも使っていきましょう。

93

今日のまとめです。今日は、答え方の土台を作りました。まず、答えには「型」があることを学びました。そして、実際に声に出してみることで、自分の曖昧な点にも気づけました。さらに、「練習すれば伸びる」という感覚を持てたことが、今日の大きな成果です。今日感じた難しさは、才能の問題ではありません。練習量の問題です。これからも、結論 → 理由 → 補足この型を意識して、繰り返し使っていきましょう。型が安定すれば、内容は必ず乗ってきます。次回も、この土台の上に積み重ねていきます。

93

口頭試問ログ（1/2）

項目	内容
出題内容	出題テーマ（骨名・部位）： 出題形式：□ 位置関係 □ 骨指標 □ 関節・運動 □ その他（＿＿＿）
自分の回答	実際に話した内容を要点で書く 回答メモ： 回答時間：□ 20秒以内 □ 20〜30秒 □ 30秒超
2年生からのフィードバック	良かった点： 修正ポイント：

94

94

口頭試問ログ（2/2）

項目	内容
言い直し	※フィードバックを踏まえて再回答 修正版メモ：
自己チェック	結論から答えられた　□ はい ／ □ まだ 位置関係を言えた　□ はい ／ □ まだ 用語は正確だった　□ はい ／ □ まだ 時間内に収まった　□ はい ／ □ まだ
気づき・次回への改善点	次に意識したいこと：

95

95

今日の振り返り

- 口頭で「答える立場」になって感じたこと
- 答えるときに自分がやりがちな癖
- 「型」を意識してみて気づいたこと
- 今後、意識したいこと
- 次回に向けて一言



96

では、今日の振り返りです。今日は「聞く側」ではなく、実際に口頭で答える立場になってもらいました。まず考えてみてください。口頭で「答える立場」になって、何を感じましたか？思ったより緊張しましたか？それとも、意外と話せましたか？次に、答えるときに自分がやりがちな癖はありませんでしたか？・いきなり細かい説明から入ってしまう・話が長くなる・結論が後回しになる・曖昧なまま話してしまうこうした癖に「気づけた」こと自体が、大きな成長です。そして、「型」を意識してみてどうでしたか？結論 → 理由 → 補足この順番を意識するだけで、頭の中が整理される感覚はありませんでしたか？完璧でなくて大丈夫です。大切なのは、「型に戻る」という意識です。では最後に、今後、何を意識していきたいですか？そして、次回に向けて一言。今日の振り返りを、次の一歩につなげましょう。

96

振り返りシート

項目	内容
口頭で「答える立場」になって感じたこと	
答えるときに自分がやりがちな癖	
「型」を意識してみて気づいたこと	
今後、意識したいこと	
次回に向けての一言	

97

97

次回は、骨学を運動や骨指標と結びつけて説明していきます。



98

最後に、次回の予告です。次回は、骨学を「運動」や「骨指標」と結びつけて説明する練習に入ります。これまでは、「骨の形」「特徴」「位置関係」を整理してきました。次のステップは――それを“動き”とつなげることです。例えば、・この骨がどう動くのか・どの筋が関わるのか・どの骨指標を触れれば確認できるのか単に名前を言えるだけではなく、臨床や評価につながる説明ができるようにしていきます。骨は「形」で覚える段階から、「機能」と結びついた理解へ進みます。今日までの整理が、次回の土台になります。骨を「立体」として、そして「動く構造」として説明できるようにしていきましょう。次回も、実践的に取り組んでいきます。

98

第８回

骨学②
（統合：骨×運動×骨指標）

99

第8回に入ります。今回は骨学② ― 統合：骨 × 運動 × 骨指標 です。これまで私たちは、・骨の形・頻出ポイント・答え方の型を整理してきました。今日はそこから一段階進みます。骨を「単体」で覚えるのではなく、運動と結びつける。さらに、触診できる骨指標と結びつける。つまり、▶どの骨が▶どの方向に動き▶どこを触れば確認できるのかここまで一つの流れで説明できることを目指します。国家試験だけでなく、臨床で本当に使える骨学にしていきます。今日は「統合」の回です。知識をバラバラにせず、一本の線でつなげていきましょう。

99

骨を「動き」と結びつけて理解する

骨は、動くために形があります。



- 口頭試問対策（統合フェーズ）
- 骨・骨指標・関節運動を関連づける
- 説明の精度を高める

今日は、骨の名前や位置だけでなく、
「なぜこの形なのか」「どんな動きと関係するのか」を考えます。
骨学を一段深く理解する回です。

100

ここからは、骨を「動き」と結びつけて理解する段階に入ります。骨は、ただ存在しているわけではありません。動くために、その形があります。丸いのか、平らなのか。出っ張っているのか、へこんでいるのか。それはすべて、関節運動と関係しています。今日は統合フェーズです。・骨・骨指標・関節運動この3つをバラバラに覚えるのではなく、一つのストーリーとして説明できることを目指します。「なぜこの形なのか」「どんな動きと関係するのか」ここまで言えるようになると、暗記ではなく理解になります。今日は、骨学を一段深くする回です。

100

なぜ「骨×運動」で考えるのか

つながると、忘れにくくなります。



- 丸暗記になりにくい
- 口頭試問で説明しやすい
- 臨床イメージにつながる

骨を単体で覚えると、すぐに混乱します。
運動や関節と結びつけることで、理解が安定します。

101

では、なぜ「骨×運動」で考えるのでしょうか。理由はシンプルです。つながると、忘れにくくなるからです。骨を単体で覚えると、形・名前・位置がバラバラになり、すぐに混乱します。しかし、・どんな関節をつくるのか・どんな動きを生むのか・どんな骨指標が関係するのかここまで結びつけると、理解が一本の線になります。すると一一丸暗記になりにくい。口頭試問で説明しやすい。臨床の動きのイメージにつながる。骨は、動くための構造です。単なる名称暗記ではなく、「なぜこの形か」を語れる理解を目指しましょう。

101

今日扱う視点

3つをセットで考えます。



- 骨の形・位置
- 骨指標（ランドマーク）
- 関節運動（ROM）

今日は、この3つを常にセットで確認してください。
どれか1つが抜けると、説明が弱くなります。

102

では、今日扱う視点を確認します。今日は 3つをセットで考えます。1つずつではなく、必ず3点セットで整理することがポイントです。1つ目は、骨の形・位置。どこにあり、どういう形をしているのか。2つ目は、骨指標（ランドマーク）。触れられる突起や窪み、筋の付着部、関節面など、説明の根拠になる部分です。3つ目は、関節運動（ROM）。その骨は、どんな動きに関与するのか。屈曲なのか、外転なのか、回旋なのか。この3つがそろって、初めて説明が完成します。どれか1つでも抜けると、「知っているけれど弱い説明」になります。今日からは、形・ランドマーク・運動を必ずセットで確認する習慣をつけていきましょう。

102

骨指標に注目する

動きのヒントは、骨指標にあります。



- 筋・靭帯の付着部
- 動きの支点・制限
- 国試頻出ポイント

骨指標は、ただの名称ではありません。
「ここに付くから、こう動く」という視点で見てみましょう。

103

今日は、骨指標に注目します。動きのヒントは、骨指標にあります。骨指標というと、つい「名前を覚えるもの」と思いがちですが、それだけでは不十分です。まず一つ目。筋や靭帯の付着部。「ここに付くから、この方向に引かれる」という視点で見てください。二つ目。動きの支点や制限になる場所。出っ張りや関節面の形が、運動方向や可動域を決めています。三つ目。国試の頻出ポイント。臨床や機能と結びつけて問われます。骨指標は、ただの名称ではありません。「ここに付くから、こう動く」この因果関係で考えることが、理解を深め、説明力を高めます。

103

関節運動と結びつける

動きをイメージしながら確認します。



- 関節の種類
- 主な運動方向
- 制限される動き

模型や自分の体を使って、実際に「どの方向に動くか」
を確認しながら進めてください。

104

ここでは、関節運動と結びつけて考えます。骨を見たら、必ず「この関節はどう動くのか？」と考えてください。まず一つ目、関節の種類。蝶番関節なのか、球関節なのか。構造によって、できる動きは決まります。二つ目、主な運動方向。屈曲・伸展なのか、外転・内転なのか。まず"基本の動き"を押さえましょう。三つ目、制限される動き。靭帯や骨の形状が、どの方向を止めるのか。ここが説明の差になります。模型や自分の体を使って、実際に動かしながら確認してください。「どの方向に動くのか」をイメージできることが、理解の安定につながります。

104

各学年の役割

2年生の役割（総合支援）	1年生の役割（説明チャレンジ）
つながりを言葉にします。	**つなげて説明してみます。**
• 骨と運動の関係を補足 • 説明の抜けを指摘 • 混同ポイントを共有	• 骨指標と運動を結びつける • 短く説明してみる • 分からない点を言語化
2年生は、「骨→運動→意味」のつながりを補足してください。	「この骨指標があるから、この動きに関係する」と言ってみてください。

105

ここからは、各学年の役割を確認します。まず、2年生の役割です。皆さんは「総合支援」です。つながりを言葉にしてください。骨と運動の関係を補足する。説明の抜けを指摘する。混同しやすいポイントを共有する。大事なのは、「骨 → 運動 → 意味」の流れを整えることです。次に、1年生の役割です。今日は「説明チャレンジ」です。骨指標と運動を結びつけて、まずは短く説明してみましょう。完璧でなくて大丈夫です。分からない点は、そのまま言語化してください。「この骨指標があるから、この動きに関係する」この一文を意識してみてください。2年生は支え、1年生は挑戦する。この役割で、理解を一段深めていきましょう。

ミニ口頭試問（統合編）

説明の質を確認します。

- 1人1問
- 骨＋骨指標＋運動
- 20〜30秒で回答



ここで、短い口頭試問を行います。
前回の「型」を意識しながら、統合的に答えてみましょう。

106

ここからは、ミニ口頭試問（統合編）を行います。今日は、説明の「質」を確認します。1人1問です。テーマは、骨＋骨指標＋運動。必ずこの3つをセットで入れてください。答える時間は、20〜30秒。長く話す必要はありません。むしろ、必要最小限でまとめることが大切です。ポイントは、前回までの「型」です。まず結論。何の骨で、どの運動と関係するのかを先に示します。次に理由。その骨指標があるから、なぜその動きに関係するのか。最後に補足。関節の種類や制限される動きなどを一言添えられると、説明の質が上がります。丸暗記ではなく、「つなげて話せているか」を意識してください。では、始めましょう。

今日のまとめ

骨学が「使える知識」になりました。

- 骨と運動がつながった
- 説明に厚みが出た
- 国試・臨床に近づいた



今日の理解は、そのまま国試対策につながります。
骨学が「説明できる知識」になってきています。

107

今日のまとめです。今日は、骨学が「覚える知識」から「使える知識」に変わりました。骨と運動がつながりましたね。骨の形や骨指標を見たときに、「だからこの動きに関係する」と考えられるようになりました。その結果、説明に厚みが出てきました。名前を並べるだけでなく、理由をつけて話せるようになっています。これは、そのまま国試対策につながります。さらに、臨床で患者さんを評価するときの視点にも近づいています。今日の理解は、すでに「説明できる知識」になっています。この感覚を忘れず、これからも骨と運動をセットで考えていきましょう。

骨指標チェックシート（1/2）

項目	内容
骨・関節の特定	骨名：＿＿＿＿＿＿＿＿ 関連関節：＿＿＿＿＿＿＿＿ 参照教材：☐ 骨模型 ☐ 図譜 ☐ 教科書（＿＿頁）

	骨指標名	位置の説明（上下・前後・内外・左右）	関連する構造（筋・靭帯・関節）	自信
1				○／△
2				○／△
3				○／△
4				○／△
5				○／△

108

骨指標チェックシート（2/2）

項目	内容
動きとの関連	この骨指標が関係する主な運動： その理由（なぜその動きと関係するか）：
混同チェック	※ 間違えやすい点を明確化 混同しやすい骨指標： 混同する理由： 見分ける決め手（1つ）：
30秒説明チャレンジ	※ 口頭試問直結 （結論 → 骨指標の位置 → 動きとの関係）
自己精度チェック	指標名を即答できる　□ はい ／ □ まだ 位置関係を言葉で言える　□ はい ／ □ まだ 動きと結びつけて説明可　□ はい ／ □ まだ

109

109

今日の振り返り

- 今日「つながった」と感じたこと
- 単体では分かっていたが、結びついていなかった点
- 説明する視点で気づいたこと
- 今日の学びで「重要だ」と感じた視点
- 次回に向けて一言



110

それでは、今日の振り返りを行います。まず一つ目。今日「つながった」と感じたことは何でしょうか。骨と運動、骨指標と動き、形と意味。どの瞬間に「なるほど」と思えたかを思い出してみてください。二つ目。単体では分かっていたけれど、結びついていなかった点は何でしたか。名前は知っていた。位置も覚えていた。でも、「だからどう動くのか」までは考えていなかった部分があったはずです。三つ目。説明する視点で気づいたことは何でしょう。自分が分かっているつもりでも、いざ言葉にすると曖昧になる部分があったと思います。そこが、次の伸びしろです。四つ目。今日の学びで「重要だ」と感じた視点は何ですか。骨を“形”ではなく“機能”で見ること。骨指標を“目印”ではなく“意味のある構造”として捉えること。どの視点が自分にとって大きかったでしょうか。最後に、次回に向けて一言。「次はここを意識したい」「もっと短く説明できるようにしたい」小さくても構いません。今日の振り返りを言葉にすることで、学びはさらに定着します。ぜひ、自分の言葉でまとめてみてください。

110

振り返りシート

項目	内容
今日「つながった」と感じたこと	
単体では分かっていたが、結びついていなかった点	
今日の学びで「重要だ」と感じた視点	
今日の学びで「重要だ」と感じた視点	
次回に向けての一言	

111

111

次回は、
今日までの内容を使って、
繰り返し学べる教材を
作ります。



112

それでは、次回の内容です。次回は、今日までに学んできた内容を使って、繰り返し学べる教材を自分たちで作ります。ただ覚えるのではなく、「説明できる形」に整理し直します。骨の形、骨指標、関節運動。それぞれをつなげて、短く、分かりやすくまとめられるか。教材を作るということは、理解を“受け身”から“能動”に変えることです。作る過程そのものが、最高の復習になります。次回は、これまでの学びを総動員していきましょう。

112

第９回

かるた
（国試頻出で作成･反復）

113

第9回です。今回のテーマは「かるた（国試頻出で作成・反復）」です。これまで学んできた骨の形・骨指標・関節運動。それらを「説明できる知識」にしてきました。今回はさらに一歩進めます。国試でよく出るポイントを使って、自分たちで“かるた形式”の教材を作ります。なぜ、かるたなのか。・短く・要点だけで・反復できるこの3つが自然に身につくからです。国試は、知識量だけではなく、瞬時に引き出せるかどうかが問われます。作ることが復習。繰り返すことが定着。今日は、「覚える」から「使いこなす」へステップを進めます。それでは始めていきましょう。

反復できる教材をつくる

覚えるより、思い出せるようにします。

- 国試対策フェーズ
- かるたで反復学習
- 弱点の可視化

今日は、これまで学んできた内容を「かるた」という形にします。目的は暗記ではなく、自然に思い出せる状態をつくることです。

114

今日は、「反復できる教材をつくる」ことがテーマです。ポイントは、覚えることではありません。思い出せる状態にすることです。国試対策フェーズでは、知識の量よりも「引き出せるかどうか」が重要になります。そこで使うのが、かるた形式です。・短い問い・即答・何度も繰り返すこれによって、自然に思い出せる回路を作ります。そしてもう一つ大事なのが、弱点の可視化です。取れない札、詰まる問い、説明があいまいになる部分。そこが、今の課題です。今日は、これまでの学びを「かるた」という形に変え、暗記ではなく、自然に思い出せる状態を目指します。それでは、作成に入っていきましょう。

なぜ「かるた」なのか

遊びながら、差が見えます。



- 反復しやすい
- 理解不足がすぐ分かる
- チームで学べる

かるたは、できている所とできていない所がすぐに表れます。間違えた札こそ、今日の一番の教材です。

115

では、なぜ「かるた」なのか。理由はシンプルです。遊びながら、差が見えるからです。まず、反復しやすい。机に向かって黙々と覚えるより、テンポよく何度も繰り返せます。次に、理解不足がすぐ分かる。取れない札、迷う札、説明できない札。そこが今の弱点です。そして、チームで学べる。人の説明を聞くことで、自分に抜けていた視点に気づけます。かるたは、できている所と、できていない所をはっきり映し出します。だからこそ、間違えた札こそ、今日一番の教材です。楽しみながら、自分の差を見つけていきましょう。

今日のゴール

弱点を見つけることが成果です。



- 国試頻出語句でかるたを作る
- 遊びを通じて記憶する
- 弱点を見つける

今日は「全部取れる」ことがゴールではありません。「取れなかった理由」が分かれば、十分な成果です。

116

今日のゴールを確認します。弱点を見つけることが成果です。まず、国試頻出語句でかるたを作ります。ただ覚えるのではなく、「説明できる形」にしていきます。そして、遊びを通して繰り返します。取れるかどうかよりも、迷った所に注目してください。今日の目的は、全部取れることではありません。取れなかった理由が分かれば、十分な成果です。なぜ迷ったのか。どこが曖昧だったのか。そこが、これから伸びるポイントです。弱点が見えたら成功。その視点で取り組んでいきましょう。

かるたの基本構成

読み札と取り札をセットで作ります。

- 読み札：短い説明文
- 取り札：用語・名称
- 1セット1テーマ
- 10セット以上



読み札は、説明台本の超要約版です。
聞いてすぐ分かるかどうかを意識してください。

117

ここからは、かるたの基本構成を確認します。かるたは、読み札と取り札をセットで作ります。読み札は、短い説明文です。いわば、説明台本の“超要約版”です。聞いてすぐ意味が分かるかどうかがポイントです。取り札は、用語や名称です。つまり、「答え」にあたるカードです。そして、1セット＝1テーマ。例えば、「骨＋骨指標＋運動」で1セット。これを10セット以上作ります。数を作ることで、自分が強い所と弱い所が見えてきます。大事なのは、難しい文章を書くことではありません。聞いて、すぐイメージできるか。その視点で、シンプルに、明確に作っていきましょう。

117

かるたのイメージ



118

これが、かるたの具体的なイメージです。右側が読み札。左側が取り札です。読み札には、短い説明文や問いを書きます。例えば、「肩の外転で動く。上腕骨の外側上方にある突起は何と言う？」このように、骨＋骨指標＋運動をつなげた文章にします。そして取り札には、答えとなる名称を書きます。この場合は、大結節ですね。ポイントは、単に「大結節とは何か」と問わないこと。「どの動きと関係するのか」「どこにあるのか」を一緒に問うことで、知識が“単語”ではなく“使える説明”になります。かるたは、覚えたかどうかを試す道具ではありません。つながっているかを確認する道具です。このイメージで、自分たちのオリジナルかるたを作っていきましょう。

118

かるた作成のポイント

読み札は、短く、正確な文で。

- 20～30字程度
- 位置関係・特徴を含める
- 曖昧な表現は使わない



「これを聞けば思い出せる」一文を目指しましょう。

119

では、かるた作成のポイントを確認します。まず大前提です。読み札は、短く、正確な文で書くこと。目安は、20～30字程度。長すぎると覚えにくく、短すぎるとヒントが足りません。次に、位置関係や特徴を必ず含めること。「どこにあるのか」「どの動きと関係するのか」「何が特徴なのか」この要素が入ると、一気に“使える問題”になります。そして重要なのが、曖昧な表現は使わないこと。「近くにある」「だいたい上」「大きいほう」こういった表現はNGです。かるたは、自分の理解の甘さをそのまま映します。目指すのは、「これを聞けば思い出せる」一文。暗記用の文章ではなく、思い出すためのトリガーを作る意識で書いてください。この質が、復習効果を大きく左右します。

119

各学年の役割

２年生の役割（かるた添削）	１年生の役割（かるた作成）
正確性を最後に担保します • 読み札の内容確認 • 用語・位置関係のチェック • 混同ポイントの指摘 2年生は、作り直させる役ではありません。「ここがズレやすい」と一言添えるだけで十分です。	**かるたを作り、実施し、弱点を見つける** • 読み札・取り札を考える • 位置関係を言葉にする • 思い出せるかを基準に考える 取れなかった札・迷った札を必ずメモする

120

では、各学年の役割を確認します。まず、1年生の役割です。テーマは「かるたを作り、実施し、弱点を見つける」こと。・読み札・取り札を自分で考える・位置関係を言葉にする・“思い出せるかどうか”を基準にするここがポイントです。そして何より大事なのは、取れなかった札、迷った札を必ずメモすること。今日は全部取ることが目的ではありません。「どこが曖昧か」を発見することが成果です。次に、2年生の役割です。テーマは「正確性を最後に担保する」こと。・読み札の内容確認・用語や位置関係のチェック・混同しやすいポイントの指摘2年生は、作り直させる役ではありません。「ここがズレやすいよ」「その表現だと誤解しやすいね」この一言を添えるだけで十分です。1年生は“作って気づく側”。2年生は“精度を上げる側”。この役割分担があるから、チームでの学びが深まります。お互いの役割を意識して、質の高いかるたを作っていきましょう。

120

かるたを制作しよう



121

では、ここから実際にかるたを制作します。これまで学んできた内容を、「覚える知識」から「思い出せる知識」に変えていきましょう。まずはテーマを一つ決めます。国試で頻出の内容から選びましょう。次に、・取り札（用語・名称）を決める・読み札（短い説明文）を作るこの順番で進めてください。ポイントは、聞いてすぐ思い出せるかどうか。長くしすぎない。曖昧にしない。位置関係や特徴を必ず入れる。作って終わりではありません。実際に読み上げて、取り合ってみます。取れなかった札、迷った札こそ、今日一番の学びです。では、制作を始めましょう。

121

かるたをやってみる

かるたで遊んでみましょう。



- チーム内で実施
- テンポよく進める
- 取れなかった札に注目

完成したら、すぐにやってみましょう。
止まった札・迷った札が、そのまま弱点です。

122

では、実際にかるたをやってみましょう。作ったら、すぐに実施します。考え込まず、テンポよく進めてください。ルールはシンプルです。読み札を読み、思い出せたら素早く取る。大事なのは勝ち負けではありません。・止まった札・迷った札・間違えた札そこに注目してください。それが、今の自分の弱点です。完成して満足するのではなく、やって初めて意味があります。では、チームで始めましょう。

122

弱点を記録する

次につなげるために残します。



- 取れなかった札
- 迷った理由
- 覚え直すポイント

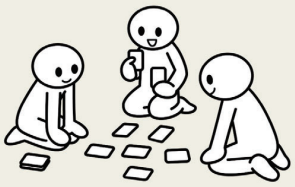
「なぜ取れなかったか」を言葉にしてください。
それが、第10回の総仕上げにつながります。

123

最後に、弱点を記録します。かるたは、やって終わりではありません。次につなげるために、「残す」ことが大切です。記録してほしいのは、３つです。まず、取れなかった札。どのテーマが弱いのかをはっきりさせます。次に、迷った理由。知識不足なのか、位置関係が曖昧なのか、言葉が思い出せなかったのか。原因まで考えます。そして、覚え直すポイント。どこをどう直せばいいのか、一言でまとめてください。特に大切なのは、「なぜ取れなかったのか」を言葉にすることです。曖昧なままにしない。ここまでできて、初めて弱点が武器になります。この振り返りが、第10回の総仕上げにつながります。

123

かるたをやってみよう



124

それでは、かるたをやってみましょう。今からは、実践です。頭で考えるだけでなく、実際に動いてみます。チームで輪になってください。読み手を一人決め、テンポよく進めます。大事なのは、速さよりも「気づき」です。取れなかった札、迷った札、一瞬止まった札。そこに、あなたの弱点があります。間違えることは問題ではありません。むしろ、間違えた瞬間が一番の学びです。楽しみながら、でも真剣に。さあ、始めましょう。

124

今日のまとめ

反復で理解が浮き彫りになりました。

- 思い出せた点
- 思い出せなかった点
- 次にやるべきこと



今日見えた弱点は、とても価値があります。
残り1回で、そこを重点的に整えていきましょう。

125

それでは、今日のまとめです。今日は「覚える」ではなく、反復することで、理解を浮き彫りにしました。かるたを通して、・思い出せた点・思い出せなかった点・自分の中で曖昧だった点が、はっきり見えたはずです。取れた札は、理解できている証拠。迷った札は、まだ整理が必要な部分。取れなかった札は、これから伸びる部分です。大事なのは、弱点が見えたこと自体が成果だということです。今日見えた弱点は、あなたの成長ポイントです。残り1回で、そこを重点的に整えていきましょう。今日の気づきを、必ず次につなげます。お疲れさまでした。

125

弱点リスト（1/2）

	用語・骨名・骨指標	どの場面で詰まったか	自信
1		かるた／口頭試問／説明	○／△
2		かるた／口頭試問／説明	○／△
3		かるた／口頭試問／説明	○／△
4		かるた／口頭試問／説明	○／△
5		かるた／口頭試問／説明	○／△

126

126

弱点リスト（2/2）

項目	内容
なぜ弱点になったか	理由（該当するものに○） □ 名前と位置が結びついていない □ 位置関係（前後・内外・左右）が曖昧 □ 似た用語と混同した □ 動き・関節と結びついていない □ 説明の順番が分からない □ その他（＿＿＿＿＿＿）
正しく整理し直す	正しい位置・特徴（簡潔に）＿＿＿＿＿＿ 見分ける決め手（1つ）＿＿＿＿＿＿
30秒で言い直すとしたら	※ 口頭試問直結 ＿＿＿＿＿＿ ＿＿＿＿＿＿ （結論 → 骨指標の位置 → 動きとの関係）

127

127

今日の振り返り

- 取れた理由
- 取れなかった理由
- 次回への準備
- 次回に向け一言



128

それでは、今日の振り返りを行います。まずは、なぜ取れたのか。たまたまではなく、どの知識がつながっていたのかを言葉にしてください。次に、なぜ取れなかったのか。知識不足なのか。位置関係が曖昧だったのか。説明が思い出せなかったのか。原因を具体的に考えましょう。そして、次回への準備。今日見えた弱点を、どのように整えるのかを決めてください。最後に、次回に向けて一言。「ここを必ず仕上げる」そんな宣言ができれば十分です。振り返りが、次の成長をつくります。

128

振り返りシート

項目	内容
今日の授業テーマ	
取れた理由	
取れなかった理由	
次回への準備	
次回に向けての一言	

129

129

次回は、
いよいよ最終回です。
これまでの積み重ねを、
形として確認しましょう。



130

次回はいよいよ最終回です。ここまで積み重ねてきた内容を、ただ思い出すのではなく、「形」として確認します。知識がつながっているか。説明できる状態になっているか。弱点は整理できているか。最後は、自分の現在地をはっきりさせる回です。これまでの努力を、確かな成果として確認しましょう。

130

第10回

総仕上げ
（かるた大会＋口頭試問②）

131

第10回、いよいよ総仕上げです。今日はかるた大会と口頭試問②を行います。これまで積み重ねてきた知識を、「思い出せるか」「説明できるか」で確認します。かるたでは、瞬時に思い出せるか。口頭試問では、構造的に説明できるか。ここが最終チェックです。できる・できないをはっきりさせ、自信を持って次のステージへ進みましょう。

131

学びを総仕上げし、成果を確かめる

ここまでの積み重ねを、形にします。

- 最終回
- かるた大会
- 最終口頭試問

今日は最終回です。
ここまでやってきたことを、かるたと口頭試問で確認します。
評価よりも「成長の確認」を大切にします。

132

今日は最終回です。ここまで積み重ねてきた学びを、いよいよ形にします。行うのはかるた大会、そして最終口頭試問です。目的は「評価」ではありません。自分がどれだけ成長したかを確認することです。思い出せるか。説明できるか。つながっているか。この3点を意識しながら、これまでの積み重ねを確かめていきましょう。

132

今日のゴール

できるようになったことを自覚する。

- 思い出せる項目が増えた
- 安定して説明できた
- 弱点を言葉で言えた



今日は新しいことは増やしません。
「できるようになったこと」を、はっきりさせる回です。

133

今日のゴールは、「できるようになったこと」を自覚することです。思い出せる項目は、確実に増えています。説明も、以前より安定してきています。そして、弱点も自分の言葉で言えるようになりました。今日は新しい知識は増やしません。これまで積み重ねてきたことを、「自分はここまでできる」と、はっきりさせる回です。成長を確認しながら、自信を持って締めくくりましょう。

全体の流れ

前半、後半で進めます。

- 前半：かるた大会
- 後半：最終口頭試問
- 最後：振り返り・共有



前半はかるたでウォームアップ、
後半は口頭試問で仕上げます。

134

今日は、この流れで進めます。前半と後半に分けて取り組みます。まず前半は、かるた大会です。ここでしっかり思い出し、頭と体を温めます。後半は、最終口頭試問。一人ずつ、説明できるかを確認します。そして最後に、振り返りと共有。できたこと、課題、次につなげるポイントを整理します。前半でウォームアップ、後半で仕上げ。これまでの積み重ねを、形にしていきましょう。

かるた大会の目的

勝敗より、知識の定着を確認します。

- 記憶の最終確認
- 迷いが減っているか
- 弱点が減ったか



かるた大会は、勝ち負けを競う場ではありません。
「前より迷わなくなったか」を感じてください。

135

ここからは、かるた大会です。目的は、勝つことではありません。知識がどれだけ定着しているかを確認することです。今日見るポイントは三つです。一つ目、記憶の最終確認。二つ目、迷いが減っているか。三つ目、弱点が減ったか。かるた大会は、勝ち負けを競う場ではありません。「前より迷わなくなったか」を感じてください。自分の成長を、確かめる時間にしましょう。

かるた大会の進め方

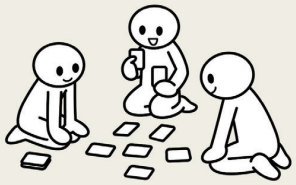
- 2チーム対抗戦（1,2年生混成）
- 読みは相手チームが行う
- 読むのは２年生、取るのは１年生
- 取れなかった札を記録

テンポよく進めていきます。
取れなかった札は、その場でメモしておきましょう。

136

それでは、かるた大会の進め方を説明します。まず、2チーム対抗戦です。1年生と2年生を混ぜたチームで行います。読みは、相手チームが担当します。そして、読むのは2年生、取るのは1年生です。2年生は、正確に読み上げること。1年生は、思い出して素早く取ることを意識してください。取れなかった札は、そのままにしません。必ずその場でメモを取りましょう。今日は勝敗よりも、「どこで止まったか」「どこで迷ったか」が大切です。テンポよく進めます。集中して、楽しみながら取り組みましょう。

かるた大会スタート



137

それでは――かるた大会、スタートします。まずは深呼吸。楽しみながら、全力でいきましょう。読む人は、はっきり・ゆっくり・正確に。取る人は、最後まで聞いてから動きます。迷っても大丈夫です。止まった札こそ、今日の宝です。勝ち負けよりも、「前より思い出せるか」に注目してください。では、1枚目いきます。準備はいいですか？――スタート！

弱点リストを確認する

残り時間は、復習に使います。

- 第9回の弱点リストを確認
- 修正できた点の洗い出し
- まだ不安な点の洗い出し

第9回で作った弱点リストを見返してください。
「もう大丈夫」と言える項目が増えていればOKです。

138

それでは、弱点リストを確認します。残り時間は、新しいことを増やす時間ではありません。ここまでの復習に使います。まず、第9回で作った弱点リストを開いてください。一つひとつ見ながら、「もう大丈夫」と言えるものにチェックを入れていきましょう。次に、修正できた点を整理します。どこが改善できたのか、具体的に言葉にしてください。そして最後に、まだ少し不安が残る点を洗い出します。不安がゼロでなくても大丈夫です。「どこが不安か」をはっきりさせることが大切です。弱点が減っていれば、それは確実に前進しています。では、静かに確認を始めましょう。

最終口頭試問の位置づけ

完成度を確認します。

- 1人2問
- ２年生が質問し、１年生が回答
- 20～30秒
- 型＋正確さを重視



最終口頭試問では、「型を守って、安定して答えられるか」を見ます。

139

それでは、最終口頭試問の位置づけを確認します。ここでは、完成度を確認します。1人2問。2年生が質問し、1年生が回答します。時間は20～30秒です。大切なのは、速さよりも「型」と「正確さ」です。内容が分かっていても、型が崩れると不安定に見えます。逆に、型を守れていれば、落ち着いて見えます。今回見るのは、「型を守って、安定して答えられるか」です。知識があるかどうかだけでなく、安定して再現できるかを確認します。では、落ち着いて取り組みましょう。

各学年の役割

２年生の役割 （最終試験官）	１年生の役割 （最終チャレンジ）
評価ではなく、確認です。 • 正確性の最終確認 • 一言フィードバック • 成長ポイントを伝える 2年生は、できていない点より「ここが良くなった」を必ず伝えてください。	**落ち着いて答えます。** • 結論から話す • 詰まったら言い直す • 型を信じる これまでやってきた「型」を信じて答えてください。

140

では、各学年の役割を確認します。まず、2年生。今日は「最終試験官」です。ただし、評価ではありません。確認です。・正確に答えられているか・型が守れているか・前より成長しているかこの3点を見てください。そして必ず、「できていない点」よりも「ここが良くなった」を伝えてください。次に、1年生。今日は最終チャレンジです。大切なのは、落ち着くこと。・結論から話す・詰まったら言い直す・型を信じるこれまでやってきた「型」を信じてください。完璧でなくて構いません。安定して、型通りに話せればOKです。お互いに、成長を確認する時間にしましょう。

簡易ルーブリックで確認

成長を見える化します。



- 正確さ
- 説明の順序
- 安定感

点数ではなく、「最初よりどう変わったか」を見ていきます。

141

141

簡易ルーブリック（1/2）

評価観点と到達レベル

※ 各観点について、最も近いレベルに○をつける
※ 点数化せず、**段階評価のみ**で使用可能

	項目	レベル
1	骨学の理解・正確さ	3：骨・骨指標・位置関係を正確に説明できる 2：大枠は理解しているが、一部曖昧な点がある 1：用語や位置関係に混乱が残っている
2	説明力（口頭試問・発表）	3：結論から話し、20〜30秒で安定して説明できる 2：説明はできるが、順序や時間にばらつきがある 1：説明が途中で止まる、または要点が伝わらない
3	統合的理解（骨 × 運動 × 骨指標）	3：骨の形と運動・機能を結びつけて説明できる 2：一部は結びつくが、説明が断片的 1：骨を単体でしか捉えられていない

142

142

簡易ルーブリック（2/2）

	項目	レベル
4	協働・関わり方（屋根瓦式）	3：学年を越えて主体的に関わり、学びを支えた 2：指示があれば関わり、協働に参加していた 1：関わりが限定的で、受け身が多かった
5	学びの姿勢・振り返り	3：弱点を把握し、改善につなげようとしている 2：振り返りは行っているが、改善が曖昧 1：振り返りが表面的、または記載が少ない
6	総合所見（短文でOK）	できるようになったこと：＿＿＿＿ 今後の課題・伸ばしたい点：＿＿＿＿
7	本人コメント（自己評価）	自分が一番成長したと感じる点：＿＿＿＿
8	2年生コメント（任意）	コメント：＿＿＿＿

143

143

10回の学びを振り返る

ここまでの変化を言葉にします。

- 最初と比べてできるようになったこと
- 印象に残った学び方
- 今後に活かしたい点

最初の頃を思い出しながら、自分の変化を書いてみてください。

144

では最後に、10回の学びを振り返ります。ここまでの変化を、ぜひ言葉にしてみましょう。「なんとなく成長した」ではなく、具体的に振り返ることが大切です。まず一つ目。最初と比べて、できるようになったことは何ですか？思い出せる項目の数、説明の安定感、迷いの少なさ。小さな変化でも構いません。二つ目。印象に残っている学び方は何ですか？かるた、弱点リスト、口頭試問…。どの方法が、自分にとって効果的でしたか？三つ目。これから活かしたいことは何ですか？今回身につけた「型」や「振り返る力」を、次にどう使いますか？最初の頃の自分を思い出しながら、今の自分との違いを書いてみてください。変化に気づけること自体が、成長です。

144

協働学習で学んだこと

学年を越えて学ぶ意味。

- 教えると理解が深まる
- 支え合う学び
- 説明する力の重要性



この学び方は、就職後の現場にもつながります。
先輩・後輩として学ぶ感覚を、忘れないでください。

145

最後に、協働学習で学んだことを振り返ります。今回の学びは、学年を越えて取り組んできました。その意味は、とても大きいものです。まず一つ目。「教えると理解が深まる」ということ。説明する立場になることで、自分の曖昧さに気づき、理解がより確かなものになりました。二つ目。支え合う学び。一人で完璧を目指すのではなく、互いに補い合うことで、全体の力が高まります。三つ目。説明する力の重要性。分かっていることと、伝えられることは違います。言葉にできて初めて、本当に身についたと言えます。この学び方は、就職後の現場にもつながります。先輩になれば教える立場に、後輩になれば学ぶ立場になります。どちらの立場でも成長できる感覚を、忘れないでください。

今日の振り返り

- この授業で一番「できるようになったこと」
- 最初（第1回）と比べて変わったこと
- 印象に残っている学習場面
- この学びをこれからどう活かすか
- 一緒に学んだメンバーへ一言



146

それでは、今日の振り返りを行います。まず一つ目。この授業で一番「できるようになったこと」は何ですか。知識でも、説明の仕方でも、落ち着きでも構いません。自分の中で一番の成長を言葉にしてみましょう。二つ目。第1回と比べて、何が変わりましたか。最初は不安だったこと、うまくいかなかったことを思い出してください。今の自分と比べることで、変化がはっきり見えてきます。三つ目。印象に残っている学習場面は何ですか。かるた大会、口頭試問、仲間とのやり取り。どの場面が、自分を成長させましたか。四つ目。この学びを、これからどう活かしますか。授業で終わらせず、次の場面につなげることが大切です。最後に。一緒に学んだメンバーへ、一言メッセージを書いてみましょう。共に取り組んだからこそ、ここまで来られました。自分の成長と、仲間への感謝。その両方を、しっかり言葉にして締めくくりましょう。

振り返りシート

項目	内容
この授業で一番「できるようになったこと」	
最初（第1回）と比べて変わったこと	
印象に残っている学習場面	
この学びをこれからどう活かすか	
一緒に学んだメンバーへ一言	

147

皆さん、全10回、本当にお疲れさまでした。ここまで継続して取り組んできたこと自体が、まず素晴らしい成果です。忙しい中でも時間をつくり、考え、実践し、振り返ってきました。今日の自分は、10回目の前の自分と同じでしょうか。きっと、視点や言葉の選び方、相手への向き合い方が、少しずつ変わっているはずです。成長は劇的な変化ではなく、こうした小さな積み重ねの中にあります。どうか今日の自分を、しっかりと認め、誇ってください。そして、この学びをこれからの現場で活かし続けていきましょう。本当に、よく取り組みました。ありがとうございました。

10回、
本当によく取り組みました。
今日の自分を、
ぜひ誇ってください。



148

指導ガイド



協働学習

- 【講師】：OOOOOO
- 【日付】：yyyy年mm月dd日
- 【授業目標】：1年生と2年生が協力して学ぶことで、就職後に必要な先輩・後輩間のコミュニケーション力と、学習内容を説明できる力を育成する。

1

授業の概要

- **科目のねらい**
  １年生と２年生が協力して学ぶことで、就職後に必要な先輩・後輩間のコミュニケーション力と、学習内容を説明できる力（教える力／学び直す力）を育成する。あわせて、骨学を中心とした国試対策（口頭試問形式の練習・反復学習）につなげる。
- **到達目標**
  ① 学年混成チームで役割分担し、協力して活動を進められるようになる
  ② 既存の骨・臓器教材を根拠として、位置関係（上・下、前・後、内・外、右・左）を正確に説明できるようになる
  ③ 骨学の重要事項を整理し、口頭試問の形式で短く正確に答えられるようになる（国試対策）
- **実施形態**
  屋根瓦式（2年生が1年生を支援しながら学ぶ学年混成の協働学習）
- **授業時間（総時間）**
  90分（1.5時間）×10回

2

全体スケジュール①

第1回	オリエンテーション
第2回	2年生による学習紹介＋導入体験
第3回	協同制作①（正確理解→設計）
第4回	協同制作②（制作＋正確性チェック）
第5回	協同制作③（発表・交流まとめ）

3

全体スケジュール②

第6回	骨学①（頻出ポイント整理）
第7回	口頭試問①（答え方の型）
第8回	骨学②（統合：骨×運動×骨指標）
第9回	かるた（国試頻出で作成・反復）
第10回	総仕上げ（かるた大会＋口頭試問②）

4

学習項目

項目	時間配分	概要
第1回	90分	講義
第2回	90分	2年生によるミニ発表
第3回	90分	協同制作
第4回	90分	協同制作
第5回	90分	協同制作
第6回	90分	口頭試問対策
第7回	90分	口頭試問対策
第8回	90分	口頭試問対策
第9回	90分	かるた制作
第10回	90分	かるた大会
合計	90分×10	

5

各回の指導ガイドの内容

- 指導目標
- 指導内容
- 成果物の制作における指導のポイント
- 成果物の評価方法とポイント
- グループワークの手順

6

第1回　オリエンテーション

■ 指導目標

- 協働学習の目的と意義を理解する
- 学年を超えて安心して関われる雰囲気をつくる
- チームで基本ルールを決め、スタートシートを完成させる

■ 指導内容

- 授業趣旨・目標説明
- アイスブレイク
- チームづくり
- 全体発表・振り返り

7

第1回　オリエンテーション

■ 成果物の制作における指導のポイント

- ルールは「行動レベル」で具体的に書かせる
- 抽象語のみで終わらせない
- 学年差を意識した内容にする
- 全員が意見を出すことを重視

■ 成果物の評価方法とポイント

- 数値評価は行わず、形成的評価とする
- 観点：主体性・具体性・協働性・目的理解
- 良い例を全体共有し、承認する

8

第1回　オリエンテーション

■ グループワークの手順

1. チーム編成（学年混成）
2. 自己紹介（短時間で全員発言）
3. 骨学への気持ち共有
4. チーム名決定
5. ルール3つ決定
6. シート記入
7. 発表
8. 振り返り

9

第2回　2年生による学習紹介＋導入体験

■ 指導目標

- 先輩の経験から学習の「見通し」を持つ
- 骨学学習への不安を言語化し、軽減する
- 学年混成で学ぶ意義を体感する

■ 指導内容

- 導入・本時の目的共有
- 2年生ミニ発表（学びの進め方、つまずきと克服）
- 質問タイム
- 導入体験
- ポイント整理・振り返り

10

第2回　2年生による学習紹介＋導入体験

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 2年生側
  - 成功談だけでなく「正直なつまずき」を書かせる
  - 行動レベルで具体化させる
  - 1年生へのメッセージを必ず含める
- 1年生側
  - 印象に残った点を具体的に書かせる
  - 自分に取り入れたい行動を明確にさせる
  - 気持ちの変化を言語化させる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 体験や行動が具体的か
- 気づきが言語化できているか
- 質問・対話への参加しているか

11

第2回　2年生による学習紹介＋導入体験

■ グループワークの手順

1. 2年生発表準備（簡潔に要点整理）
2. 2年生発表（学びの進め方／つまずき克服）
3. 1年生メモ取りグループ内
4. 質問タイム
5. 骨学導入体験（2年生は支援役）
6. 振り返り

12

第3回　協同制作①（正確理解→設計）

■ 指導目標

- 参照教材を根拠に正確に理解する姿勢を身につける
- 位置関係を言葉で説明できるようにする
- 補助教材の形式を目的に応じて選択できるようにする

■ 指導内容

- 授業の流れ確認
- 参照教材の確認
- 位置関係の言語化
- 補助教材の形式選択

13

第3回　協同制作①（正確理解→設計）

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 扱う骨・部位・範囲を明確にさせる
- 参照教材とページ番号を必ず明記させる
- 30秒で説明できる要点に整理させる
- 「使いやすさ」を基準に形式を選ばせる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 根拠が明示されているか
- 位置関係が適切に言語化されているか
- 内容が整理されているか
- 教材形式の選択理由が明確か

14

第3回　協同制作①（正確理解→設計）

■ グループワークの手順

1. 扱う骨・範囲の決定
2. 参照教材で確認
3. 位置関係を言語化
4. ミニ出題練習
5. 教材形式を選択
6. 制作設計シート記入
7. グループ内最終確認
8. 振り返り

15

第4回　協同制作②（制作＋正確性チェック）

■ 指導目標

- 設計内容をもとに、補助教材を具体的な成果物として形にできるようにする。
- 「作る」と「確かめる」を同時に行う姿勢を身につける。
- 正確性を意識しながら説明できる状態に近づける
- 30秒で要点を説明できるよう言語化する

■ 指導内容

- 制作と正確性チェックの同時進行
- 正確性チェックの
- 説明台本の作成
- 学年別役割の確認

16

第4回　協同制作②（制作＋正確性チェック）

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 設計シートから離れさせない
- 言語化させながら制作させる
- 誤りを“学習素材”にする
- 30秒説明を制作の途中から考えさせる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 制作物を見ながら口頭説明させる
- 支援者が根拠確認質問を行う
- 教員は「正誤」だけでなく「確認プロセス」を観察する
- 振り返りシートで自己評価させる

17

第4回　協同制作②（制作＋正確性チェック）

■ グループワークの手順

1. 役割確認
2. 制作開始
3. 30秒説明練習
4. 相互確認
5. 振り返り

18

第5回　協同制作③（発表・交流まとめ）

■ 指導目標

- 30秒で正確に説明できる力を身につける
- 説明を通して理解を確かなものにする
- 他者の発表から学びを深める姿勢を育てる

■ 指導内容

- 30秒発表と相互フィードバックを行う
- 聞き手視点で分かりやすさを確認する
- 振り返りを通して学びを言語化する

19

第5回　協同制作③（発表・交流まとめ）

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 結論→位置関係→補足の順で話す
- 30秒を意識する
- 台本を見ながらでも可
- 正確性を意識して説明する
- 完璧より「気づき」を重視

■ 成果物の評価方法とポイント

- 30秒で要点が伝わったか
- 用語や位置関係が正確か
- 順序立てて説明できたか

20

第5回　協同制作③（発表・交流まとめ）

■ グループワークの手順

1. チーム内で最終確認
2. 1チームずつ30秒発表
3. 聞き手がコメント
4. 2年生が補足・整理
5. 振り返り

21

第6回　骨学①（頻出ポイント整理）

■ 指導目標

- 国家試験を意識した学習へ移行する
- 頻出部位を正確に説明できるようにする
- 骨を見る視点を統一する
- 正確性を最優先する姿勢を育てる

■ 指導内容

- 骨学の頻出ポイントを整理する
- 範囲を限定して重点的に扱う
- 骨を見る基本視点を確認する（向き・特徴・位置関係）
- 骨学まとめシートを作成する
- 学年別役割を明確にして進める

22

第6回　骨学①（頻出ポイント整理）

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 指定範囲のみを確実に整理させる
- 「向き→特徴→関係」の順で整理する
- 混同ポイントを必ず書かせる
- 根拠教材を明示させる
- 後で見返せる構造にする

■ 成果物の評価方法とポイント

- 用語が正しいか、位置関係が明確か
- 向き→特徴→関係で構造化されているか
- そのシートだけで説明できるか
- 間違えやすい点が明記されているか

23

第6回　骨学①（頻出ポイント整理）

■ グループワークの手順

1. 扱う範囲の確認
2. 骨の向き・位置関係を確認
3. 特徴的ランドマークを整理
4. 他の骨・関節との関係を確認
5. 混同ポイントを抽出
6. まとめシート記入
7. 口頭説明で相互確認
8. 振り返り

24

第7回　口頭試問①（答え方の型）

■ 指導目標
- 短く正確に答える力を養う
- 答え方の「型」を身につける
- 曖昧な理解を自覚できるようにする
- 20～30秒で要点を伝えられるようにする

■ 指導内容
- 口頭試問の目的を理解する
- 答え方の基本構造を学ぶ　（結論→理由・位置関係→補足）
- 20～30秒の時間感覚を意識する
- 1問ずつ短いサイクルで実施する・口頭試問ログを記録する

25

第7回　口頭試問①（答え方の型）

■ 成果物の制作における指導のポイント
- 何の話かを最初に明確にさせる。
- 位置関係を必ず入れさせる
- 必要最小限を選ばせる。
- 「良かった点」と「修正点」を分けて書かせる
- 再回答を必ず行わせる

■ 成果物の評価方法とポイント
- 結論から話せているか、順序が整理されているか
- 用語は正確か、位置関係は明確か
- 20～30秒に収まっているか
- フィードバックを反映できたか

26

第7回　口頭試問①（答え方の型）

■ グループワークの手順
1. 2年生が出題
2. 1年生が20～30秒で回答
3. 回答時間をチェック
4. 2年生がフィードバック
5. ログシート記入
6. 修正版で再回答
7. 自己チェック欄記入
8. 振り返り

27

第8回　骨学②（統合：骨×運動×骨指標）

■ 指導目標
- 骨・骨指標・関節運動を関連づけて説明できる
- 形態と運動の因果関係を言語化できる
- 口頭試問を想定し簡潔に説明できる

■ 指導内容
- 骨の形態と骨指標の整理
- 関節構造と運動方向の確認
- 骨・指標・運動の統合演習

28

第8回　骨学②（統合：骨×運動×骨指標）

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 「3点セット」で整理させる
- 「なぜその動きか」を必ず言語化させる
- 30秒説明を前提に作らせる
- 混同ポイントを必ず記載させる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 骨・指標・運動が結びついているか
- 「なぜその動きと関係するか」を言えているか
- 上下・前後・内外・左右を明確に表現できているか
- 20～30秒で説明可能か

29

第8回　骨学②（統合：骨×運動×骨指標）

■ グループワークの手順

1. テーマ提示
2. 個人整理
3. ペア説明
4. ミニ口頭試問（統合編）
5. 全体共有
6. 振り返り

30

第9回　かるた（国試頻出で作成・反復）

■ 指導目標

- 国試頻出語句を反復できる
- 教材を作成する思い出せる状態かどうかを確認する
- 弱点を可視化し次回へつなげる

■ 指導内容

- 読み札・取り札の作成
- チームでのかるた実施
- 弱点リストへの記録と整理

31

第9回　かるた（国試頻出で作成・反復）

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 読み札は20～30字で作らせる
- 1テーマ1セットで整理させる
- 間違いを価値化する
- 30秒説明につなげる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 用語が正しいか、位置関係が明確か
- 読み札を聞いて即答できるか
- なぜ取れなかったかが明確か
- 正しい位置・特徴を言い直せるか

32

第9回　かるた（国試頻出で作成・反復）

■ グループワークの手順

1. 国試頻出語句の選定
2. 読み札・取り札作成（10セット以上）
3. 2年生が内容確認（正確性チェック）
4. チーム内でかるた実施
5. 取れなかった札を記録
6. 弱点リスト記入
7. 30秒説明で再整理
8. 全体共有
9. 振り返り

33

第10回　総仕上げ（かるた大会＋口頭試問②）

■ 指導目標

- これまでの学習成果を確認する
- 安定して型に沿って説明できるようにする
- 自身の成長と課題を言語化できるようにする

■ 指導内容

- かるた大会による知識定着の確認
- 最終口頭試問（1人2問）
- 簡易ルーブリックと振り返りによる成長確認

34

第10回　総仕上げ（かるた大会＋口頭試問②）

■ 成果物の制作における指導のポイント

- 「できたこと」に焦点を当てさせる
- 型の安定を重視させる
- 成長と課題を分けて整理させる
- 協働の振り返りを入れる

■ 成果物の評価方法とポイント

- 用語・位置関係・骨指標が正確か
- 結論から話せているか、時間内に安定しているか
- 骨×運動×骨指標を関連づけているか
- 学年を越えて支援・挑戦できたか

35

第10回　総仕上げ（かるた大会＋口頭試問②）

■ グループワークの手順

1. かるた大会（混成チーム対抗）
2. 弱点リスト確認
3. 最終口頭試問（1人2問）
4. 簡易ルーブリック記入
5. 最終振り返りシート記入
6. 全体共有

36